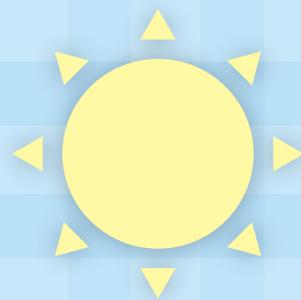


明日の暮らし、ささえあう

CO・OP 共済



地域ささえあい助成

— 生協と他団体が協同する活動を応援します —

2020年度 活動報告集



日本コープ共済生活協同組合連合会

はじめに

日本コープ共済生活協同組合連合会（以下、コープ共済連）では、社会貢献活動として2012年度に「CO・OP共済 地域ささえあい助成」を開始し、2020年度に9年目を迎えました。

生協は、くらしを向上させることを目的に事業を進めていますが、昨今の少子高齢化や貧困などのくらしに関する困難は、地域社会全体に目を向け、他団体・行政とも一緒になって必要な取り組みを行わなければ解決できない状況になってきています。そのため、本助成では、生協と他団体がネットワークを形成しながら問題を解決していく活動を支援することにしており、あわせて、次の3つのテーマにそった取り組みを助成の対象としています。

- ① くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する
- ② 命を守り、その人らしい生き方ができるようにする
- ③ 女性と子どもが生き生きする

2020年度は52件のご応募をいただき、審査委員会において40件、2,310万8,492円の助成を決定しました。残念ながらその後、新型コロナウイルスの影響で助成を受ける活動の実施が困難であるとして、一部の団体より助成辞退の申し出があり、結果的に37件、2,176万1,100円の助成となりました。

なお、選定にあたっては次の選考基準を設け審査を進めました。

選考基準

- ① 生協と地域の他団体との協働により成り立つ活動であること
- ② 計画の実現性
- ③ 予算計画の妥当性
- ④ 対象者のニーズに基づく活動であること
- ⑤ 多様な地域住民の関わりや参加度
- ⑥ 活動の新規性や先駆性

※ 過去に助成を受けたことのある団体では、取り組みの発展性にも着目しました。

※ 協働の取り組みができていくかという点では、他団体と協働することで新たな広がりが期待できるか、または、生協がしっかり役割を發揮できているかを着眼点としました。

2020年度をふりかえって

2020年度は、まさに生活のあらゆる場面で新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。本助成は、生協と他団体が協働して取り組む活動を支援するものですが、感染拡大防止の観点から様々な活動の自粛が求められる中、異なる組織どうしが協働を進めることも難しい状況だったと思われます。

とはいえ、コロナ禍で職を失うなどにより生活に困窮する人が増えるに伴い、フードバンク・フードドライブ、子ども食堂（配食）の活動やひとり親支援の活動は活発化しており、本助成においてもそのような団体を支援できたことは意味のあることと考えます。一方で、地域の居場所づくりなど、人と人とのつながりを作る、人が会うことが前提となっていた活動については、感染防止のために参加人数を抑えたり、一部内容を見直したりといった対策が必要となり、活動の広がりを作り出すことは難しかったようです。それでも、一部の団体ではオンラインでの交流を試みるなど、新たな動きも見られたのは特筆すべきことです。

感染拡大の収束に向けた切り札ともいえるワクチン接種が徐々に開始するなど、希望の光も見え始めていますが、1年以上にもおよぶ自粛生活の中で私たちが失ったものは大きく、社会的な影響はしばらく続くものと思われます。このような大変な時こそ、大切なのは「助け合い」です。SDGs（持続可能な開発目標）でもうたわれている「誰も取り残さない」社会の実現に向けて、生協や他団体が、対面・非対面に関わらず人と人とのつながりを生み出し、協働の力を発揮しながらコミュニティの再構築を実践されることを期待します。

さらなる発展を目指して

2021年には、本助成制度の開始から10年目となる節目の年を迎えます。現在、10年間の実践を通じて得た知見等を元に、2022年度から本助成を一部リニューアルし、新たな制度として継続する方向で検討が進められているところです。コープ共済連の社会貢献活動が、地域に根差した活動を促進する大きな一助としてさらなる発展を遂げることを期待しています。引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

2020年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 審査委員会
委員長 上野谷 加代子（同志社大学 名誉教授）



はじめに	1
2020年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 審査委員会 委員長 上野谷 加代子 (同志社大学 名誉教授)	
2020年度「CO・OP共済 地域ささえあい助成」助成先一覧	4

活動報告集

1 暮らしを守り、暮らしの困りごとの解決に資する

●桜ヶ丘安心ルーム ①多世代の居場所づくり②放課後見守り活動	8
●生活協同組合コープぎふ 飛騨市北部(宮川町、河合町)で、地域サロンの広がりをつくる	9
●北毛保健生活協同組合 北橋支部 はあーちゃん家 地域の居場所づくり「はあーちゃん家」	10
●北毛保健生活協同組合 赤城支部 バラの会 地域の居場所づくり「バラの会」	11
●東京保健生活協同組合 地域の医療保健の駆け込み寺	12
●いいさよ～山梨 有償ボランティア・地域助け合い活動「いいさよ～山梨」	13
●おたがいさま水戸 ボランティアによる生活支援活動	14
●一般社団法人シンママ大阪応援団 シングルマザー世帯の生活とママの心の安定をもたらすスペシャルボックス事業	15
●公益社団法人フードバンクかながわ 「もったいない」を「分かち合い」～「ありがとう」へ	16
●フードバンク奈良 フードバンク活動	17
●フードバンクしまね「あったか元気便」 学校給食のない時期に食と福祉情報を届ける「あったか元気便」	18
●フードバンクさが フードバンクの基盤強化とフードドライブ活動	19
●東京ほくと医療生活協同組合 地域に広がるなんでも相談会のネットワーク	20
●社会福祉法人いぶき福祉会 新しい協働ステーションにおけるコミュニティガーデンづくり	21
●生活協同組合おかやまコープ 平成30年西日本豪雨被災地支援活動～社協との連携を軸とした他団体との協同～	22
●しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西・神戸ウエスト シングルマザーから発信!地域の困りごとの解決方法を探るネットワークづくり	23
●生活協同組合コープこうべ(「大庄元気むら～コープさんとこ」) 「大庄元気むら～コープさんとこ」を立上げ、地域ささえあい活動拠点にする。	24
●生活協同組合コープこうべ(男性向けの「食」と「スポーツ」の学び場) 男性向けの「食」と「スポーツ」の学び場と、発表の場としてのコミュニティ食堂の創造	25



2 命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

- リレー・フォー・ライフ・ジャパン 神戸
がん啓発イベント 28
- 生活協同組合パルシステム千葉
習志野市多世代が交流し、地域で子どもの育ちを支援する取り組み 29
- 愛媛医療生協 共同農園「レインボーファーム」
5年目を迎え、本格的に「生き生きと楽しく集える活動の場」の広がり、地域に役立つ共同農園づくりを ... 30
- 病気の子どもと家族を孤立させない支援団体 NPO 未来 ISSEY
子ども未来フェスの開催&病児の家族の交流会&グリーンケア会の開催 31
- 公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を
沖縄の文化を通して自信と自立を促すプロジェクト 32
- 特定非営利活動法人 あなただけの乳がんではなく
乳がん啓発イベント、乳がん検診受診推進 33
- みやぎ生活協同組合 生活文化部 地域活動推進課
地域づくりを担う「元気な健幸サポーター」を作る取り組み 34
- 津山アルツハイマーデー実行委員会
津山 世界アルツハイマーデー認知症理解・啓発活動 35



3 女性と子どもが生き生きする

- 生活協同組合コープ自然派奈良
きゅうしょくカンガループロジェクト（給食を考えるプロジェクト） 38
- 東吉野こどもと楽しむ会
食堂や商店を兼ね備えた子どもと子育て世代、村民が暮らすように集えるコミュニティスペース作り ... 39
- 特定非営利活動法人熊本県子ども劇場連絡会
「もっと、みんなで学ぼう みんなであそぼう！ “あそび心”が地域をつくり仲間をつくる」 40
- なのはな生活協同組合
こども食堂『からべえ』・地域活性化と居場所づくり 41
- 北海道生活協同組合連合会
こども食堂北海道ネットワーク広域連携支援＋フードバンク活動連携 42
- シングルず（香芝市母子寡婦福祉会）
ひとり親家庭の親と子の居場所づくりと学びの広場 43
- NPO 法人フードバンク八王子えがお
夏休み・冬休み期間等 子育て世帯食料応援事業 44
- 特定非営利活動法人チャイルドケアセンター
ママの社会参画支援（再就職支援） 45
- 特定非営利活動法人パープルネットさいたま
みんながDV 被害者サポーター ～つながる居場所～ 46
- NPO 法人みやっこサポート
食で子ども達を守り、地域の未来を守るプロジェクト！ 47
- あくらす
地域で人が繋がりがあ、生活しあ、育ちあう場所の提案と安心して暮らせる地域を目指す拠点づくり ... 48

地域ささえあい助成 団体交流会 開催報告（オンライン） 49

地域ささえあい助成 募集のお知らせ 50

地域ささえあい助成事務局からのお知らせ 52

2020年度 CO・OP 共済 地域ささえあい助成 助成先一覧

※助成先および協同団体は 2020 年度活動当時の名称です。

1 暮らしを守り、暮らしの困りごとの解決に資する

桜ヶ丘安心ルーム

【協同団体】

- ◎医療生協さいたま生活協同組合

生活協同組合コープぎふ

【協同団体】

- ◎よらまいかびいず

北毛保健生活協同組合 北橋支部 はあーちゃん家

【協同団体】

- ◎分郷八崎長寿会

北毛保健生活協同組合 赤城支部 バラの会

【協同団体】

- ◎三原田団地自治会

東京保健生活協同組合

【協同団体】

- ◎文京区社会福祉協議会
- ◎氷川下町会
- ◎文京サポーター家族会

いいさよ～山梨

【協同団体】

- ◎生活協同組合パルシステム山梨
- ◎フルーツ山梨農業協同組合
- ◎特定非営利活動法人ワーカーズコープ
東京三多摩山梨事業本部

おたがいさま水戸

【協同団体】

- ◎いばらきコープ
- ◎茨城保健生協
- ◎NPO 法人ナルク水戸
- ◎パルシステム茨城 栃木
- ◎NPO 法人セカンドリーグ
- ◎水戸市社会福祉協議会

一般社団法人シンママ大阪応援団

【協同団体】

- ◎大阪よどがわ市民生協
- ◎おおさかパルコープ
- ◎シンママ熊本応援団
- ◎シンママ福岡応援団
- ◎MINAMI 子ども教室（大阪市中央区で外国ルーツの母子のサポートをしている団体）

- ◎あらんの家・ミモザの家（奈良市にある自立援助ホーム）
- ◎東部市場
- ◎こども・若者・シングルマザー応援基金
- ◎熊取町で農業をしている若者グループ

公益社団法人フードバンクかながわ

【協同団体】

- ◎神奈川県生活協同組合連合会
- ◎生活協同組合パルシステム神奈川
- ◎生活クラブ生活協同組合（神奈川）
- ◎生活協同組合ユーコープ
- ◎神奈川県労働者共済生活協同組合
（こくみん共済 CO-OP 神奈川推進本部）
- ◎神奈川県労働者福祉協議会
- ◎かながわ勤労者ボランティアネットワーク
- ◎公益財団法人横浜 YMCA
- ◎公益財団法人かながわ生き生き市民基金
- ◎特定非営利活動法人参加型システム研究所
- ◎神奈川県農業協同組合中央会
- ◎中央労働金庫

フードバンク奈良

【協同団体】

- ◎奈良県生活協同組合連合会
- ◎市民生活協同組合ならコープ

フードバンクしまね「あったか元気便」

【協同団体】

- ◎松江保健生活協同組合
- ◎島根県農業協同組合（本店）
- ◎島根県農業協同組合（くにびき地区本部）
- ◎生活協同組合しまね
- ◎グリーンコープ島根
- ◎島根県労働者福祉協議会
- ◎地域つながりセンター

フードバンクさが

【協同団体】

- ◎コープさが生活協同組合
- ◎労働者福祉協議会

東京ほくと医療生活協同組合

【協同団体】

- ◎北区労働組合連合会
- ◎東京土建一般労働組合北支部
- ◎北区生活と健康を守る会

社会福祉法人いぶき福祉会

【協同団体】

- ◎生活協同組合コープぎふ

生活協同組合おかやまコープ

【協同団体】

- ◎倉敷市社会福祉協議会
- ◎総社市社会福祉協議会
- ◎真備町写真洗浄@あらいぐま岡山

しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西・ 神戸ウエスト

【協同団体】

- ◎コープこうべ第5地区本部
- ◎NPO しんぐるまざあずふぉーらむ関西
- ◎一般社団法人日本子育て制度機構
- ◎NPO 福祉ネット星が丘

生活協同組合コープこうべ （「大庄元気むら～コープさんところ」）

【協同団体】

- ◎尼崎市大庄南地域包括支援センター
- ◎兵庫県立尼崎西高等学校
- ◎大庄ことはじめ
- ◎NPO 法人シンフォニー

生活協同組合コープこうべ （男性向けの「食」と「スポーツ」の学び場）

【協同団体】

- ◎社会福祉法人芦屋市社会福祉協議会
- ◎芦屋市
- ◎社会福祉法人あしや聖徳園

（18 団体） 10,383,111 円

2 命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 神戸

【協同団体】

- ◎生活協同組合コープこうべ
- ◎リレー・フォー・ライフ・ジャパン神戸

生活協同組合パルシステム千葉

【協同団体】

- ◎社会福祉法人八千代美香会ブレイメン習志野
- ◎ワーカーズコープちば

愛媛医療生協 共同農園「レインボーファーム」

【協同団体】

- ◎愛媛医療生協
- ◎えひめ NP0311
- ◎三葉幼稚園
- ◎あったか拓南
- ◎共同作業所「なかよし村」

病気の子どもと家族を孤立させない支援団体 NPO 未来 ISSEY

【協同団体】

- ◎生活協同組合コープかがわ

公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を

【協同団体】

- ◎生活協同組合コープおきなわ
- ◎社会医療法人敬愛会 中頭病院

特定非営利活動法人 あなただけの乳がんではなく

【協同団体】

- ◎生活協同組合コープかごしま
- ◎社会医療法人博愛会相良病院

みやぎ生活協同組合 生活文化部 地域活動推進課

【協同団体】

- ◎一般社団法人りぷらす

津山アルツハイマーデー実行委員会

【協同団体】

- ◎おかやまコープ美作エリア
- ◎津山市民生児童委員連合協議会
- ◎津山市認知症の人と家族の会
- ◎オレンジカフェ吉井川

津山アルツハイマーデー実行委員会（続き）

【協同団体】

- ◎加茂タクシー
- ◎みまさか認知症疾患医療センター
- ◎日本認知症グループホーム協会
- ◎認知症対応型通所介護事業所 じーちゃん・ばーちゃんのお家
- ◎津山信用金庫
- ◎臼井茶店
- ◎認知症キャラバン・メイト
- ◎美作大学生活科学部 社会福祉学科
- ◎学校法人美作学園 岡山県美作高等学校
- ◎協同組合 津山一番街
- ◎津山市役所 高齢介護課
- ◎津山市社会福祉協議会
- ◎津山市地域包括支援センター

(8 団体) 5,022,085 円

3 女性と子どもが生き生きする

生活協同組合コープ自然派奈良

【協同団体】

- ◎農民運動奈良県連絡会（奈良県農民連）
- ◎橿原の学校給食を考える会
- ◎奈良市の給食のおはなし

東吉野こどもと楽しむ会

【協同団体】

- ◎市民生活協同組合ならコープ
- ◎東吉野水力発電株式会社
- ◎特定非営利活動法人 東吉野村まちづくり NPO

特定非営利活動法人熊本県子ども劇場連絡会

【協同団体】

- ◎グリーンコープ生協くまもと
- ◎親と子を元気にする放課後クラブおかえり！
- ◎八代の子どものくらしと文化を考える会

なのはな生活協同組合

【協同団体】

- ◎加良部地区社会福祉協議会
- ◎こども食堂からべえ運営委員会

北海道生活協同組合連合会

【協同団体】

- ◎JA 北海道中央会
- ◎こくみん共済北海道推進本部
- ◎北海道労働金庫

シングルズ（香芝市母子寡婦福祉会）

【協同団体】

- ◎市民生活協同組合ならコープ
- ◎香芝市社会福祉協議会

NPO 法人フードバンク八王子えがお

【協同団体】

- ◎東都生活協同組合
- ◎自然派くらぶ生活協同組合

特定非営利活動法人チャイルドケアセンター

【協同団体】

- ◎エフコープ生活協同組合

特定非営利活動法人パープルネットさいたま

【協同団体】

- ◎パルシステム埼玉

NPO 法人みやっこサポート

【協同団体】

- ◎生活協同組合コープこうべ 第2 地区活動本部
- ◎コープ夙川店

あくらす

【協同団体】

- ◎コープこうべ 安倉店
- ◎宝塚市社会福祉協議会
- ◎宝塚市役所 健康福祉部
- ◎NPO 法人 月と風と

(11 団体) 6,355,904 円

総合計 (37 団体 / 応募 : 52 団体) : 21,761,100 円

テーマ
1

**くらしを守り、
くらしの困りごとの
解決に資する**



桜ヶ丘安心ルーム

活動名 ①多世代の居場所づくり②放課後見守り活動

活動のきっかけ

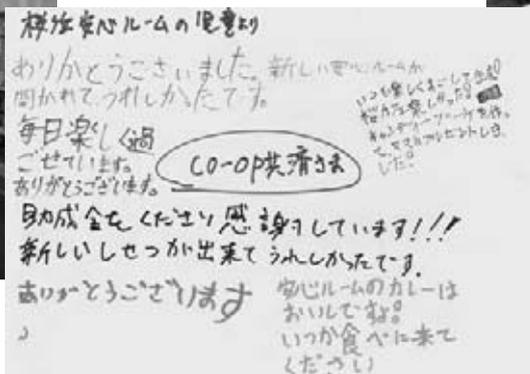
2018年3月より公的学童室に入室できなかった共働き家庭の児童について、医療生協さいたまの支部会議で話をしたところ、「協力をすることで、皆で見守り活動をしてはどうか」と話がまとまりました。短い期間での場所探しと準備を経て現在に至っています。また、医療生協さいたまの協力で、健康チェックを含む健康カフェについて各月で始めました。

協同した団体

◎医療生協さいたま生活協同組合

活動内容概要

- 1 放課後見守り活動、8名の登録4年生5年生
1日平均6名の利用 下校時～18:00
休業時は8:00～18:00のルーム滞在
- 2 手作り手芸、写経と抹茶の会、朗読会(44名)
- 3 桜カフェ、4回 中学生ボランティア3名の参加(52名)
- 4 地域住民(高齢者向け)のスマホと防災学習会3回(58名)



他団体と協同することで発見したこと

桜カフェ等の計画時など社協の職員にも相談にのっていただき、サロンや子ども食堂などの参考になる事例をたくさん教えていただきました。地域の方々が気軽に立ち寄れる場づくりには公的機関の関わりが安心に繋がるようです。また、中学生ボランティア募集も社協から声をかけて頂きました。積極的に協力をお願いすることで活動の輪が広がり、多くの人に活動を知ってもらえる事ができると思いました。

成果として評価できる点

2020年は年明けから社会がコロナ色ではありましたが、桜カフェ4回と安心安全の情報配信メール受信のためのスマホ学習会を3回行うことができました。特にスマホの学習会は、ホームページからの行政の発信を受け取ることができるようになり、詐欺等の被害の防止にも役立てると考えます。

活動において生協が担った具体的な役割

- 1 チラシの印刷や配布、参加の呼びかけ、写経と抹茶の会の指導、手芸の講師など
 - 2 学習会の依頼等の市役所の訪問
 - 3 医療生協の職員や理事の参加による健康チェックのサポートやアドバイス
- 活動時の協力や家賃補助、行事時のボランティアや地元の組合員が主になって動いてくれました。

生活協同組合コープぎふ

活動名 飛騨市北部（宮川町、河合町）で、地域サロンの広がりをつくる

活動のきっかけ

住民グループ「よらまいかびいず」が運営するサロン「み～んなよらまいか」は、毎月開催され、まもなく3年目（2020年3月）をむかえる。

協同した団体

◎よらまいかびいず

活動内容概要

- 宮川町林地区の住民グループ「よらまいかびいず」によるサロン運営をモデルに、飛騨市各地に、地域サロン活動を波及させる。宮川町（打保、杉原）河合町（羽根、元田、稲越）等で、新たに2～3箇所の立ち上げをめざす。
 - 「サロン運営メンバーの学びの場+新たなサロン運営への核づくり」を推進する。
運営メンバーがさらに元気になり、地域の横のつながりと連携の強化を目的に、広く他団体や関心者にもよびかけ、地域サロンの価値を考え、課題を共有し、交流を通して学べる場をつくる。
 - 「講演会・交流」全国の先進事例、サロンの価値についての事例報告や交流・学ぶ場。
 - 「先進地域サロン視察・交流」先進的な地域サロンの現場に出向き、体験し、運営者等との交流の場。
- ※コロナ禍により(2)の運営メンバーを主体とした学びの場をつくる事業は未着手。

他団体と協同することで発見したこと

- 地域の方々、住民自身の思いと主体性を大切に、地域の行動ルールをいっしょに考える。
- 行政や社協の施策方針を理解し、地域の（方々の）意向を肌で感じ、協同できることからいっしょにすすめる。
- これからの生協と地域とのスタンス『そのめざす方向は「ゆるやかなつながりの中にある“確かな生協”」。そのために必要なことは「まきこまれ力」の発揮。』との思いが一層強まった。



活動において生協が担った具体的な役割

- 「地域ささえあい助成」事業年間計画全体の進捗管理にかかわる調整
コロナ禍や地域情勢からの催行判断、四半期ごとの計画修正、助成金会計管理等。
- 新しい地域サロン立ち上げと運営にかかわる活動相談
核となる「よらまいかびいず」グループの運営状況の把握、サロン活動の推進応援、新規サロンの中心者づくり、新規立ち上げのスケジュール化、行政情報と地域情報とのマッチング等。
- （コロナ禍での運営づくり）地域のコロナ対策状況の把握、コロナ対策用備品の検討等。
- （次年度につなぐ展望づくり）今年度の未執行业業を翌年につなぎ、地域からの要望を盛り込んで計画化するための相談会等。



成果として評価できる点

- コロナ禍により、話し合いから作り上げるといった共創のプロセスが組めず、計画通りにすすまない中、少ない催行ではあったが、次年につながる成果も見い出せた。
- 「よらまいかびいず」グループは、緊急事態宣言の間隙を縫って既存のサロンを2回開催する一方、宮川町杉原での新しいサロン設立の準備を、着実にすすめた。
 - ・11/18(水)み～んなよらまいか 参加:35名 手洗い講習実演、軽体操等
 - ・12/16(水)み～んなよらまいか 参加:37名 クリスマス会、防犯講話等(1/20(水)み～んなよらまいかと3月の新規・杉原サロンは中止)
 - 行政（地域包括ケア課）からは、過去のサロン実証実験以降、途絶えていた地域情報の提供や、広報にも協力いただけ、河合町の2地域での新規サロン開催につながった。
 - ・11/11(水)もみじカフェ（河合） 参加:20名 おしゃべり交流、移動販売車等
 - ・11/17(火)よ～らんカフェ（河合） 参加:25名 認知症予防講話、冬物衣料出張販売等
 - 河合町の住民グループ「びいちくサロン会」メンバーから、多世代参加の新たな型での地域サロンづくりについての相談があり、広く地域の方々と交えた打ち合わせが始まっている。
 - ・12/1(火)びいちくサロン（河合） 参加:28名 脳トレゲーム、きみまるDVD、等
 - 行政との信頼関係の深まり。「よらまいかびいず」代表のメンバー共々、生協へも飛騨市生活支援体制整備協議体委員への委任委嘱があった。
 - 住民グループと生協が地域づくりにかかわっている事例を深める主旨で、特定NPO法人地域と協同の研究センター公開講座「持続可能なコミュニティを目指して」にて事例報告が行われた（20年8月）。21年2月には、同法人主催の東海交流フォーラムで飛騨市長の講演（人口減少時代の地域づくりがテーマ）と共に事例報告した。



北毛保健生活協同組合 北橋支部 はぁーちゃん家

活動名 地域の居場所づくり「はぁーちゃん家」

活動のきっかけ

分郷八崎長寿会より、活動していた長寿サロン「ひまわり会」が自然消滅してしまい、今後の活動に困っていると生協支部役員に相談があった。

協同した団体

◎分郷八崎長寿会

活動内容概要

生協の班会メニューを活かした居場所。
コロナ禍のため、今年度は月1回、短時間で開催（毎月第4土曜日の10時～12時）した。
ものづくりや季節の健康情報など提供した。



分郷八崎みんなの居場所
はぁーちゃん家

気軽に立ち寄れて、お茶を飲んでわいわい、がらがら、
ここに来れば誰かに食えて、話を楽しく、
そんな居場所をめざしています。

日時 8月29日（土）
10時～12時
場所 生方屋さんの
裏田母屋
*今回は折り紙万華鏡づ
くりを予定しています。

日中ひとりではるよりも
みんなでおしゃべり！
これが一番の認知症予防

お問い合わせ先
北毛保健生活協同組合
事務局 鎌田
☎0279-24-2141

他団体と協同することで発見したこと

- ・ 男性参加者が少ない。
- ・ チラシよりもクチコミが効果的である。
- ・ 北橋町の他の長寿会でも需要がある（真壁上地区など）。

活動において生協が担った具体的な役割

- ・ 開催案内（チラシ）の作成、会場準備、講師の派遣、安全確保の見守り。

成果として評価できる点

緊急事態宣言が解除されたあと7月から再開し、初回は参加者3人だったが、11月には7人の参加があった。当初は生協から班会メニューを提案していたが、11月に実施した際には、次回は何をするか、参加者同士で話し合いができるようになった。今後は運営の自立ができるのではと思っていたが、群馬県の警戒度がレベル4に上がったため、活動を自粛することになった。2021年4月から再開する予定。

北毛保健生活協同組合 赤城支部 バラの会

活動名 地域の居場所づくり「バラの会」

活動のきっかけ

自治会の活動で困っていた自治会役員さんから生協に相談があった。

協同した団体

◎三原田団地自治会

活動内容概要

第二金曜日に自治会のサロンがあり、その他の金曜日に「バラの会」として集まっている。

活動内容は、健康体操（ぐんぐん、だんだんダンス、あいうべ、セラバンド・・・）と健康チェックとお茶のみ健康相談、レク企画、食事会 など



他団体と協同することで発見したこと

地域のコミュニティーの維持の大切さ。特にコロナ禍で活動が縮小していく中、連携・一体となって取り組むことができた。

活動において生協が担った具体的な役割

会の運営のサポート。
保健師・講師の派遣（感染対策、熱中症予防など）。

成果として評価できる点

感染の拡大でお休みする日もあったが、コロナ禍でも工夫（感染対策）して開催したことで参加者の笑顔が広がった。参加者の声に応じて開催できたことが大きな成果。
23回開催し、のべ255人の参加があった。

東京保健生活協同組合

活動名 地域の医療保健の駆け込み寺

活動のきっかけ

2018年度から文京区社協との協同で、大塚診療所の空きスペースにて「大塚だんだんひろば」を開設し、組合員と地域の他団体が協同して活動している。その中で、東京健生病院前にある空き店舗を利用し、文京区社協と協同して「居場所」づくりを進めることを協議してきた。

文京区社協、町内会、地域の様々なNPO団体など、約10団体で実行委員会を結成。2019年10月オープンを目指し、「居場所」で開催する企画内容や建物の改修について話し合いを進めてきたが、建物の老朽化に伴う耐震補強に想定外の資金が必要であることが分かり、他団体からの投資等を依頼。2020年春のオープンを目指した。

東京保健生協としては、この空き店舗を利用した「居場所」を地域の方が集う場所として発展させるとともに「地域の医療・介護相談」機能を担っていきたいと考えている。

協同した団体

- ◎文京区社会福祉協議会
- ◎氷川下町会
- ◎文京サポーター家族会

活動内容概要

2020年8月、居場所「つゆくさ荘」をオープンし、他団体と共同開催が実現した。コロナ禍での活動制限もあったが、介護予防・健康づくり活動、子ども食堂、医療・なんでも相談会、家族支援相談会などの定期開催、不定期にて町会主催のハロウィンパーティー、近隣大学と連携した朝市・バザー「マルシェ」を開催した。多世代交流のできる居場所として地域住民に認識されつつある。



他団体と協同することで発見したこと

株式会社エーザイでは、社会貢献を一定の労働時間に組み入れ、地域住民の信頼獲得に努めており、企業が社会課題等に主体的に取り組み、社会に対して価値を創造（共通価値の創造 CSV: Creating Shared Value）していることを知ることができた。当法人との協同では、認知症サポートを行い、課題がある地域住民に対する活動にも取り組む予定である。

活動において生協が担った具体的な役割

医療生協の強みである、健康づくり活動や介護予防、医療専門職などによる医療相談機能を果たすことで住民自らが健康をつくり出すための支援を行うことができた。

また、コロナ（第3波）禍ではZoomとLINEを使ったオンラインでのミニ保健講座を開催し、約20名の地域高齢者がLiveで参加。保健講座を録画した内容を後日配信するなど高齢者中心に健康、体力づくりのサポートを行った。

成果として評価できる点

- ① 文京区社協と協同している「かよい〜の」（介護予防・毎週1回実施）では、毎週15人前後の地域住民が参加。参加者数は延べ500人で、地域住民の介護予防の場となっている。
- ② 2019年10月～、町会と協同で開催している「医療・なんでも相談」（月2回実施）では、月4～5人の地域住民が相談に訪れている。
- ③ 2020年8月～、毎月1回子ども食堂を開催。子ども100円、大人300円で食事を提供し、毎回30食完売。地域住民ボランティアも募集し、地域住民の集える場所として発展している。
- ④ 2020年9月～、毎月最終日曜日の定例会、勉強会等で引きこもり家族の交流を図っている。
- ⑤ 2020年10月、町会主催のハロウィンパーティーでは準備（部屋の飾りつけや段ボールで神輿づくり）も含め、地域の子育て世代の交流を行った。21組の親子、100名以上が参加。
- ⑥ 跡見女子大学と連携し、朝市・バザー「マルシェ」を開催。地域課題に実践的に取り組み、研究を進めている。50個仕入れたパンは即完売。70～80人が参加。
- ⑦ 「つゆくさ荘」は多世代交流のできる居場所として地域住民に認識されつつある。

いいさよ～山梨

活動名 有償ボランティア・地域助け合い活動「いいさよ～山梨」

活動のきっかけ

JAは地域農業継続のための援農者をどう確保するか、さらにJAに加えて生協も高齢者や子育て世代の困りごとをどう解決するか、W.coにあっては持続可能な地域づくりと新たな仕事起こしをどうすすめるかなど、各組織が抱えている課題の情報共有をはかった結果、各組織の課題解決を目指す取り組みを検討することとなった。

協同した団体

- ◎生活協同組合パルシステム山梨
- ◎フルーツ山梨農業協同組合
- ◎特定非営利活動法人ワーカーズコープ 東京三多摩山梨事業本部

活動内容概要

普段の暮らしや地域農業の困りごとを、地域住民の相互扶助で解決することを目指す活動を展開する。活動の仕組みは困りごとの解決を求める「依頼者」と、その解決に協力する「応援者」とを、3つの協同組合が共同で設立するコーディネート組織（＝「いいさよ～山梨」）が繋ぐもの。地域の課題を応援者が解決に協力し、また、ある時はその応援者の困りごとを他の応援者が解決を目指すという、暮らしやすい地域づくりに向けた地域住民どうしの「おたがいさま」活動を構築する。



他団体と協同することで発見したこと

単独の協同組合ではできにくいことが、3つの協同組合が協力し、お互いの経験とノウハウ等を共有化し機能補完しあうことで実現できることを確信した。また、3つの組織が「地域に協同組合を根付かせる」ことの重要性が一致した。

活動において生協が担った具体的な役割

生協が先行して実施してきた「生協組合員どうしの助け合い活動」（「くらしサポート事業」）の経験とノウハウが大いに役立った。また、生活支援をおこなう応援者を対象とした研修ノウハウ・教材もそのまま活用することができた。生協組合員には農業とのふれあいや地域の農業支援に関心のある方が多く、こうした組合員が地域農業の応援者として協力いただけることとなっている。

成果として評価できる点

2019年12月1日からの活動で2021年2月末現在の利用会員・応援会員の登録状況は以下のとおり。

- 利用会員：31名（農業支援申込29名、生活支援申込2名）
- 応援会員：33名（予定者を含む）

2019年12月から活動を開始したが、2020年2月以降の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて2020年5月まで活動を中断した。5月の新型コロナウイルス感染拡大非常事態宣言解除後、農業支援活動を開始し、これまで延べ490時間の農家支援を実施した（生活支援は「三密状態」を回避するため活動を自粛したが、現在は相談対応を実施）。

上記実績はまだ、不十分な状況と認識している。この背景は「いいさよ～山梨」の地域での認知度が低いことが要因と思われる。この認知度を向上させるため、JA・生協・W.coの組織内広報、一般マスコミの活用や、「いいさよ～山梨」ニュースの発行・配布をすすめた。また2020年12月、3つの協同組合で『「いいさよ～山梨」活動の展開にかかる協同組合間連携協定書』を締結し、「(3つの協同組合が)住民とともに地域農業の発展と暮らしやすい地域づくりの実現をめざす（協定書第1条）」ことを確認した（なおこの協定書は2020年3月に締結予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で2020年12月に締結した）。

おたがいさま水戸

活動名 ボランティアによる生活支援活動

活動のきっかけ

地域と連携した新しい助け合いの組織作りをめざし、いばらきコープ、パルシステム茨城 栃木、茨城保健生協が協力し、社協・NPO に参加を依頼して設立。

活動内容概要

独立した運営を行う有償ボランティア組織とし、運営資金はいばらきコープとパルシステム茨城 栃木が助成する。事務所は茨城保健生協内に置き、広報や会員の募集はNPO を含めた各生協で行う。

【対象】

- ・ 地域住民（生協組合員を問わず）

【活動内容】

- ・ 家事応援 買い物、掃除、洗濯、食事づくり、縫い物 他
- ・ 介助応援 外出、通院、買い物同行、話し相手、ゴミ出し 他

協同した団体

- ◎いばらきコープ
- ◎パルシステム茨城 栃木
- ◎茨城保健生協
- ◎NPO 法人セカンドリーグ
- ◎NPO 法人ナルク水戸
- ◎水戸市社会福祉協議会



他団体と協同することで発見したこと

- ・ 担い手不足（ボランティア不足）の中、各団体それぞれのルートで呼びかけ、サポーター（ボランティア）の登録人数は85名になった（目標は100名）。
- ・ それぞれの団体の活動経験からアドバイスしあうことができるとわかった。

活動において生協が担った具体的な役割

3生協の事務局が毎月1回「事務局会議」を実施。運営や活動内容について話し合っている。会議の内容は四半期に一度の役員会に報告し、会則や規則の変更につなげている。

成果として評価できる点

活動時間：前年末 1276 時間→ 2021 年 1 月現在 807.5 時間
活動件数：前年末 968 件→ 2020 年 1 月現在 547 件
利用者：前年末 90 名→ 2020 年 1 月現在 70 名
サポーター登録：前年末 78 名→ 2020 年 1 月現在 85 名

一般社団法人シンママ大阪応援団

活動名 シングルマザー世帯の生活とママの心の安定をもたらすスペシャルボックス事業

活動のきっかけ

困窮するシンママ（シングルマザー）の「給料日前1週間は預金残高が1000円未満になるため引き出せず、パスタに塩コショウだけで過ごしています」という声にこたえ、2016年11月から毎月月末に食料および日用品等の支援事業（スペシャルボックス事業）を開始した。

活動内容概要

2020年1月、2月の発送数は60世帯であったが、3月からコロナ禍の影響で困窮する世帯が急増し、「コロナで仕事なくなり子どもたちに十分ごはんを食べさせられない」「お米を送ってほしい」「収入が減り食費を捻出できない、助けてほしい」等のSOSがメールで続々と届くようになり、月半ばと月末の月2回の発送とした。

発送実績：3月78（世帯）、4月81、5月102、6月103、7月97、8月111、9月113、10月107、11月120、12月124、2021年1月129、2月132、3月145。

協同した団体

- ◎大阪よどがわ市民生協
- ◎おおさかパルコープ
- ◎シンママ熊本応援団
- ◎シンママ福岡応援団
- ◎MINAMI 子ども教室（大阪府中央区で外国ルーツの母子のサポートをしている団体）
- ◎あらんの家・ミモザの家（奈良市にある自立援助ホーム）
- ◎東部市場
- ◎こども・若者・シングルマザー応援基金
- ◎熊取町で農業をしている若者グループ



他団体と協同することで発見したこと

シンママ大阪応援団ではもともとスペシャルボックス事業として食糧・日用品送付事業を展開しており、他団体との連携は常にしていた。今回、緊急事態宣言等で行き場がなくなった食品を生協を通じて受け入れ、シンママ大阪応援団として送付できただけでなく、他団体への提供も行うことができた。

活動において生協が担った具体的な役割

2 生協が単にサポーター品を提供するだけでなく、業者さん生産者さんとの橋渡しをしていただいた。例えばいかるが牛乳で廃棄しなければならなくなった牛乳の大量受け入れをおこなった（200CCパック1200個）。

成果として評価できる点

- スペシャルボックス発送数が増加
2020年1月60世帯⇒2021年3月145世帯
 - サポーター（支援者）が増加
2020年1月310人⇒2021年2月420人
 - 毎月のスペシャルボックス発送ボランティアが増加
2020年1月20人⇒2021年2月40人
- ※ 特に毎回大学生が参加している（今年度は神戸女学院大学、立命館大学、佛光大学、龍谷大学、暁光高校からのべ100人以上が参加）。

公益社団法人フードバンクかながわ

活動名 「もったいない」を「分かち合い」～「ありがとう」へ

活動のきっかけ

神奈川県内で貧困対策活動できないか？をテーマに各団体の責任者クラスがあつまり、2015年から検討を行った。2015年9月に①生活困窮者の現状把握と支援活動の実践を学ぶ②マイクロクレジット研究③フードバンク研究を目的として「マイクロクレジット研究会」を設置。2016年11月より、神奈川県内の協同組合、労働福祉団体、市民福祉団体11団体によるフードバンクの検討会を経て、2017年4月に(仮称)フードバンクかながわ設立準備会を12団体21名にて結成。2018年4月より一般社団法人フードバンクかながわとして活動開始。同年10月全国のフードバンクではじめて公益認定を受け、公益社団法人となる。

活動内容概要

【主な活動内容(事業)】

- (1) 食料の収集・配布を通じた、生活困窮者等への支援事業
- (2) 食品ロスの削減、フードバンク等に係る調査研究・啓発・政策提言を目的とする事業
- (3) 地域社会における市民の相互扶助を増進することを目的とする事業
- (4) 災害等の被災者に対する食料・生活物資等の支援事業
- (5) 勤労意欲ある生活困窮者等の就労支援を目的とする事業

フードバンクかながわの目的(定款第3条)＝個人や団体・企業から消費するには十分安全であるにもかかわらず廃棄されてしまう食料の寄贈を受け、支援を必要としている生活困窮者等に非営利団体を通じて適切に配るフードバンクシステムの確立をめざします。あわせて、この事業を通じ地域の「たすけあい」「支え合い」「分かち合い」、相互扶助の社会づくりをめざすとともに、社会の食品ロス削減に向けた意識の向上を図り、社会福祉及び資源・環境保全の増進に寄与します。

協同した団体

- ◎神奈川県生活協同組合連合会
- ◎生活協同組合パルシステム神奈川
- ◎生活クラブ生活協同組合(神奈川)
- ◎生活協同組合ユーコープ
- ◎神奈川県労働者共済生活協同組合
(こくみん共済CO-OP神奈川推進本部)
- ◎神奈川県労働者福祉協議会
- ◎かながわ勤労者ボランティアネットワーク
- ◎公益財団法人横浜YMCA
- ◎公益財団法人かながわ生き活き市民基金
- ◎特定非営利活動法人参加型システム研究所
- ◎神奈川県農業協同組合中央会
- ◎中央労働金庫



他団体と協同することで発見したこと

今回、協同した団体は、生協のほか農協、労働福祉関係団体、市民団体(公益財団)の12団体であったが、例えば労働福祉関係団体は、行政関係とのパイプが太く、そのほか協同組合関係は、食品関連事業者への協力要請、また、市民団体は地域の支援団体や子ども食堂などとの連携推進。各団体の特色を活かして準備や活動をすすめることにより、目標以上にフードバンク活動が広がった。

活動において生協が担った具体的な役割

- (1) 余剰食品等の提供
- (2) 学習会・体験研修(学習+ボランティア体験)への参加、ボランティアの募集。
- (3) フードドライブ品の回収拠点の提供
- (4) 寄付金拠出
- (4) 事務局(スタッフ)の派遣(出向)
- (5) 倉庫兼事務所の賃貸(賃料約1/5)

成果として評価できる点

- ◆ 目標を上回った事項(目標数値⇒3/20時点での成果数値)
寄贈頂いた食品(重量)110トン⇒206トン/提供した食品(重量)108トン⇒188トン/寄贈団体数(社)90社⇒151社/提供団体数(登録数)170団体⇒211団体/賛助会員140団体250名600万円⇒167団体251名730万円/寄付金800万円⇒2,481万円
※コロナウィルス感染症拡大の影響から未利用食品が急増したこと、また、一人親家庭や学生等、収入減により食支援が必要な方も急増、こうした状況がマスコミ等に取り上げられたこともあり、個人や団体からの寄付(食品とお金)も増え、上記のように当初計画を大幅に上回る結果となった。
- ◆ 寄贈食品206トンの内、お米の寄付が約48トン(前年22トン)。フードバンクかながわでは、米を精米又は再精米し、1.5kg(1升)に小分け・袋詰めし支援団体に提供している。助成金で購入した「白米自動計量機」が大活躍し、作業効率が格段にアップした。

フードバンク奈良

活動名 フードバンク活動

活動のきっかけ

奈良県生協連や奈良県社会福祉協議会が事務局を担い、2017年8月に奈良子ども食堂ネットワークが設立された。ならコープは個別に子ども食堂にお米などの食材提供していたこともあり、ネットワークの支援団体として当初から各団体は深く関与していた。設立後、多くの子ども食堂が食材の入手や活動資金に悩んでいるなどの課題が明らかになった。全国的に広がりつつあるフードバンクが奈良県内にはなく、その必要性を感じた子ども食堂関係者が中心となり、食、福祉、環境の分野で活動するメンバーが集まり、フードバンクの設立においても奈良県生協連とならコープの協力を得た。

協同した団体

- ◎奈良県生活協同組合連合会
- ◎市民生活協同組合ならコープ

活動内容概要

- ・ フードバンク活動をより充実したものとするため、2019年10月に特定非営利活動法人フードバンク奈良の設立総会を開催し、県からは、2020年1月に認証を得た。
- ・ 自治体主催の環境イベント等で食品ロス削減についての啓発活動を行った。
- ・ 活動を知ってもらうために広報誌を2回発行し、会員・賛助会員、登録団体のほか、協力いただいた行政・団体等にも郵送した。また、ホームページを刷新し、企業や団体からの食品提供の申し出や、必要とする団体がアクセスしやすい仕組みづくりに取り組んでいる。
- ・ 「コープふれあいセンター六条」の一角をフードバンク奈良の活動拠点として無償で借り、食品の保管・活動場所としている。月に2回、食品の仕分け・提供日を設け、集まった食品を整理し、必要とする団体に提供している。
- ・ セミナーや講演会、勉強会において、当団体の活動について報告した。
- ・ フードドライブ活動を自治体や各団体での実施を働きかけた。活動のため、チラシやのぼり等のグッズを貸し出すとともに、ノウハウを提供した。
- ・ コロナウイルス感染拡大防止のため県内の小中高校が一斉休校になったことに伴い、使用しなくなった学校給食の食材を県内の福祉施設や子ども食堂などに提供するため橋渡しをした。



他団体と協同することで発見したこと

- ・ 様々な食品ロスの実態を知るとともに、有効に活用できることも感じた。
- ・ 店舗で定期的にフードドライブを実施していただくようになり、当団体だけではできない活動の広がりを得ることができた。

活動において生協が担った具体的な役割

- ・ ならコープ所有「コープふれあいセンター六条」の一角を食品の保管と活動場所として提供。
- ・ ならコープ共同購入のキャンセル品の提供。
- ・ 2020年1月より、ならコープ店舗で袋が破損した米の提供。
- ・ ならコープ役職員有志が参加しフードドライブを全店で受付、定期実施。
- ・ ならコープの広報誌やWebサイトで食品ロス解消についての啓発や当会の活動紹介。
- ・ 小中学校の臨時休校に伴い、学校給食食材が余剰となった際に、ならコープ子会社の関連企業である運送会社に食品配送の協力および食品の仕分け作業を実施。

成果として評価できる点

- ・ フードバンク奈良から食品を提供する登録団体は80団体だったが、2021年3月には103団体に増加した。食品の取扱量は、2020年度は12.6トン、2021年は41.2トンと3倍以上となった。食品を必要とする団体に提供する仕組みづくりに取り組んだ結果、障害者就労事業所に配送を委託し、奈良県中西部地域と北西部地域に配達する仕組みを構築した。従来は子ども食堂等の団体に対する食品の提供を主な活動としていたが、新型コロナウイルス感染拡大により、子ども食堂が開催できない状況となり、子育て家庭に直接食品を提供する活動を始めた。子育て家庭から生活の厳しさを訴える声ダイレクトに届くようになり、フードバンク活動の必要性を再認識した。

フードバンクしまね「あったか元気便」

活動名 学校給食のない時期に食と福祉情報を届ける「あったか元気便」

活動のきっかけ

2011年よりJA・生協・社協等の多主体連携をめざした研修会を重ねてきた。この研修会の中で、豊島子どもWAKWAKネットワークの栗林知絵子氏、フードバンク山梨の米山けい子氏、社会活動家の湯浅誠氏の講演や視察をきっかけとして活動に至った。

活動内容概要

上記7団体の連携と協同によるフードバンク事業。生活困窮者支援の中で、特に「子どもの貧困」に焦点をあて、小学校と中学校の協力を得て就学援助世帯を中心に、地区公民館・企業・構成団体が取り組むフードドライブによるお米やレトルト食品、お菓子や乾麺などと寄付金から購入する食品を学校の長期休みに届け、また我々が運営する「子ども食堂」や公民館が主催する「寺子屋（学習支援）」への紹介・案内を行い、当該家庭の孤立防止と子どもの健やかな成長を目的として事業展開している。直近の春休み対応では、177世帯（8割が母子家庭）へ約2.2トンの食品等を約100名のパッキングボランティアの手で箱詰めし、ボランティアの手書きのメッセージを同封し、宅配業者に渡している。

協同した団体

- ◎松江保健生活協同組合
- ◎島根県農業協同組合（本店）
- ◎島根県農業協同組合（くにびき地区本部）
- ◎生活協同組合しまね
- ◎グリーンコープ島根
- ◎島根県労働者福祉協議会
- ◎地域つながりセンター



他団体と協同することで発見したこと

それぞれの強みを発揮する連携スタイルとなっている。特にJAや生協では理事等の役員はもとより組合員への周知活動が盛んで食品や寄付金集めの大きな力となっている。また、JAには米の検査や管理に取り組んでいただき、品質のいい食品が提供できている。

活動において生協が担った具体的な役割

生協職員が事務局長を務め、情報収集や対外的な交渉の調整役として力を発揮し、また社協出身者として地域福祉のスキルや地域状況の情報提供にも寄与している。

成果として評価できる点

国や地方自治体が進められる生活困窮者対策では、相談・支援の窓口設置で順調に動きつつある一方、制度の周知不足やアウトリーチ型の状況把握が出来ていない中、支援を必要とする方々の見落としが発生していると思われる。母子家庭の母親の中には貧しいけれど人のお世話にならず、自分の力でやっていくというたかくな気持ちを垣間見るケースもある。しかし何度も案内をし、広報誌を目にし、新聞に取り上げられる様子によって、利用してみようという気持ちに変化していくケースも散見されている。就学援助世帯へのアプローチは学校・地域・フードバンク関係者の信頼関係による「温かさ」を届けることによって成立につながる。

今年度は、夏休みに小学校1校、冬休みに小学校1校、春休みに中学校1校が増え、利用世帯も177世帯に増えた。パッキングボランティアも約150名程度になり、地元大学の教職員と学生、高校生、社会福祉士会所属のソーシャルワーカー、民生委員、社協職員など協力者の輪が広がりにつつある。

フードバンクさが

活動名 フードバンクの基盤強化とフードドライブ活動

活動のきっかけ

食品ロス削減の調査や啓発活動を行っている「Greeting Fromさが」が佐賀県で最初のフードバンクの立ち上げを呼びかけた。環境の側面からだけではなく、子どもの貧困など福祉の側面からも必要性を感じ、賛同する団体や個人が集まり「フードバンクさが設立準備会」を経て、2019年「フードバンクさが」を設立した。

協同した団体

- ◎コープさが生活協同組合
- ◎労働者福祉協議会

活動内容概要

- ・ フードバンク活動の実施と基盤強化。・ 年度内での法人格取得。
- ・ 生協店舗での月1回、生協定配トラックを使った年2回のフードドライブ。
- ・ 困窮している県内大学生、主に留学生や、ひとり親家庭の支援。
- ・ フードバンクやフードドライブの啓発活動として「さがななかつり2020」「勤興まちの駅」「2020WEBさが環境フェスティバル」などイベントへの出展。
- ・ 企業向け講演会「社会貢献活動応援セミナー“食品ロス削減とSDGs”」開催。
- ・ 提供団体への食品衛生学習会に代わる手洗い学習会の実施。
- ・ フードドライブ実施用品セットの貸し出しと、企業と地域の子ども食堂とのマッチング。
- ・ 企業・団体などへの講師派遣（日本生命、NTT 労組退職者の会、勤興公民館、環保協、家庭教育支援者リーダー等養成講座）。



成果として評価できる点

- ・ 専従の職員を配置し、平日の問い合わせ等に対応できるようにしたり、食品の提供は週に2日、時間も延長し、より多くの団体へ対応できるようになった。
- ・ バーコードを利用した在庫管理の導入、個別食品に賞味期限シール貼り、提供団体が記入する出庫表の改善などで作業の軽減を図った。
- ・ 食品の寄贈・提供の合意書の締結団体が、寄贈24団体、提供67団体と昨年度比2倍となった。
- ・ 寄贈は、2月末までの集計で約60の企業・団体から約16t（昨年度の2.9倍）となった。全国フードバンク推進協議会に加盟できたことで、食品の寄贈量が増えた。また団体への提供は、約60団体に約400回、提供量は13.6t（昨年度の3.9倍）となった。
- ・ コロナ対策にもなる手洗い学習会をフードバンク事務所（1ヶ月間手洗い月間、参加者12名）、子ども食堂や子どもの居場所の2団体（参加者10名）を対象に実施し参加者からは好評を得た。
- ・ コープさが生協の定配を利用したフードドライブは、9月約610kg、2月約790kg、新栄店の月1回のフードドライブも月平均14kgと組合員の認知が広がった。9月には、コープさが生協から台風で配達できなかった商品の一部約500kgを、フードバンクさがを通じて地域の子ども食堂に提供し、生協と地域につながるきっかけとなった。
- ・ フードドライブ用品を3団体に4回貸し出した（子ども食堂の支援、高校での実施等）。
- ・ フードバンクさが事務局として県内大学生を支援するサンプラザプロジェクト実行委員会を立ち上げた。寄付やコープさがからの食品提供により2会場200名の大学生に支援を行った。

他団体と協同することで発見したこと

各団体の持つ特性を活かし、フードバンクさがの活動に協力いただいた。昨年度同様、各団体の多様な視点を持って活動を進めることができ、当団体にとって大きな力となった。

活動において生協が担った具体的な役割

定配トラックを使ったフードドライブの実施と集まった食品の仕分け作業。
食品保管のための倉庫の提供と搬入、搬出時の作業のための人員や車両の提供。
生協の広報誌等でのフードバンク、フードドライブの広報。
生協のHACCPを取り入れた衛生管理のガイドラインを参考にした品質管理、食品衛生マニュアルの再構築（継続中）。

東京ほくと医療生活協同組合

活動名 地域に広がるなんでも相談会のネットワーク

活動のきっかけ

医師のひとつこと「他区でもやっている相談会、北区でもできないか」がきっかけとなる。

協同した団体

- ◎ 北区労働組合連合会
- ◎ 東京土建一般労働組合北支部
- ◎ 北区生活と健康を守る会

活動内容概要

北区に届出をだし、王子駅前三角公園でテントを張るオープンスタイルな相談会。毎回、医師、看護師、介護士、MSW（医療ソーシャルワーカー）、弁護士、人権団体、労組、地域の生協組合員らが参加して相談活動を行っている。相談会のお知らせビラを事前に、場所を変えて各地域に配布しているが、数か月前にまいだビラを頼りに相談の電話が来ることもある。



他団体と協同することで発見したこと

今年は、新型コロナウイルスに関する相談は全体の約2割を占めたが、間接的にコロナ禍の影響を受けていると思われる相談が増加している。相談に来られる方で多いのは社会保障や暮らしの問題だが、失業や雇用、女性の困窮に関する相談も昨年より倍増した。また、相続や失業相談の背景に、コロナ禍による経営難の問題があるなど、複数の問題が絡み合っており、各専門団体の垣根を越えた対応が求められた。

活動において生協が担った具体的な役割

専門家である医療従事者による医療・介護相談。テント内での検温・除染コーナーの運営、地域への事前ビラまき、会場の設営。感染防止対策としてシャワーカーテンを設置。秋冬の夜間照明に本助成金で購入した発電機が活躍。

成果として評価できる点

開始以来7年目を迎え、開催数50回、相談件数541件に到達した。相談員など実行委員会団体と個人の賛同者の7年間の延べ参加者数は東京ほくと職員356人（医師45人、看護師49人、介護41人、医療ソーシャルワーカー59人、事務162人）東京ほくと地域の組合員133人、北法律弁護士47人、北区労連51人、東京土建北支部112人、生活と健康を守る会67人、民商28人、新婦人8人、年金者組合14人、ハーモニカクラブ184人、中国人の通訳の仲間24人、日中友好協会のスタッフ3人で合計1,027名。

新しく日中友好協会が参加し連帯が広がった。また、コロナ禍で居場所がなく話せる場所や仲間が欲しいという60代男性の事例では社会福祉協議会の地域福祉係に相談するなど地域機関とも連携し、相談事例を共有した。また参加団体、異業種参加者への事務局の心配りも大切なことであった。

社会福祉法人いぶき福祉会

活動名 新しい協働ステーションにおけるコミュニティガーデンづくり

活動のきっかけ

1995年のいぶき福祉会設立の時から、いぶき福祉会の地域活動やコープぎふの平和活動などでも相互に活動し合う関係があった。いぶき福祉会の後援会の活動や「いぶきふれあいまつり」などにも支所長の参加があり、一昨年からエリア委員会やおしゃべり会などもいぶきで開催することになった。コープステーション近くのいぶきの事業所を地域に開き「組合員さんの交流の場となる地域の拠点にしたい」とコープぎふといぶき福祉会の活動が始まった。

協同した団体

◎生活協同組合コープぎふ

活動内容概要

いぶき福祉会の事業所「サテライトいぶき」の敷地に、花壇（コミュニティガーデン）を作るワークショップを昨年度に引き続き行った。講師はコミュニティガーデン作りに取り組むフラワーセンター若草の代表・木村智子さんをお願いした。

- ・ 10月14日 コロナの影響でコープぎふの組合員活動がストップし、予定していた計画がすべて中止・延期をとり、花壇の状況を現地を確認しながら講師と今後の進め方を再検討。
- ・ 11月14日 花壇の一年草の植替えと、いぶき福祉会本部玄関前の花壇に花を植えた。利用者、コープの職員、スタッフ総勢29名ほど、2班に分かれて作業。サテライトいぶきのガーデンでは、一年草の植替えや伸びた花の切り戻し作業をした。一年ぶりに出会えた方もおり、花々の成長や、障がいのある利用者さんたちの様子を見ながら3時間程のワークショップを行い楽しみながら綺麗な花壇を作った。
- ・ 12月12日 花壇の周りに置くテーブルセットを、近隣の建設会社から提供された材料で制作。3つのテーブルと7脚のイスが完成。
- ・ 3月17日 コミュニティガーデン基礎講座と春の植替えをした。講師、コープぎふのエリア委員さんはオンラインでの参加。基礎講座では「人との良好な関わりが幸福感をもたらす・花は自然に心をほぐし癒す存在・人や施設の間には花や緑があることによって壁が薄まり人と人をつなぐいい感じに繋げる」といったコミュニティガーデンの役割を再確認した。視察を計画していた東京国立市の滝乃川学園とオンラインで交流し、広大な敷地で取り組まれているコミュニティガーデンの活動の話をついた。その後、庭での植替え作業を通して楽しい時間を過ごすことができた。



他団体と協同することで発見したこと

今年度はいぶき福祉会とコープぎふのみでの活動となった。コミュニティガーデンは多様な方が多様な形で参加できる場づくりだと感じている。他団体との新しい協働は常に模索していきたい。

活動において生協が担った具体的な役割

新型コロナウイルスの影響でコープぎふの組合員活動ができなかったため、大きな活動や組合員の方々への大々的な参加よびかけをすることはできなかった。ワークショップには理事、エリア委員、職員の積極的な参加があり、ガーデン活動の意味を共有しながら、ポストコロナにつなげることができた。状況の改善後は組合員や地域の方と一緒に活動を再開できる見込み。

成果として評価できる点

コミュニティガーデンの活動の発信

いぶき福祉会の会報誌への掲載 → 1500部 × 1回

いぶき福祉会の SNS への掲載 → 180日 で約 2100 のリーチ。1日の最大では 241 リーチ。

コロナ禍において組合員活動もすべてストップし人と会うことに不安を感じるようになった日常において、活動そのものを継続し発信することができた。障がいのある人たちの参加場面が大幅に増え、当初いぶきまつりボランティア講座で目的としたコープ職員の障がいのある人への理解を深める機会にもつながった。

生活協同組合おかやまコープ

活動名 平成 30 年西日本豪雨被災地支援活動～社協との連携を軸とした他団体との協同～

活動のきっかけ

おかやまコープは発災後、被害が甚大だった倉敷市に設置された災害ボランティアセンター（以下、VC）へ5名の職員を派遣し、運営スタッフとして2か月間活動を支援した。長期のVC活動を通じて社協や地区社協（地元住民）、NPO とのつながりが深まり、炊き出しや地域イベントに協同参加できるようになった。社協や他団体との協同が支援活動の一步を踏み出せた大きな要因となり、以降VC支援を終えた現在もつながりは更に深まり、被災地での協同活動は継続している。

協同した団体

- ◎倉敷市社会福祉協議会
- ◎総社市社会福祉協議会
- ◎真備町写真洗浄@あらいぐま岡山

活動内容概要

2020年度は新型コロナ禍で当初予定していた内容を大幅に見直す事となった。イベント関係は中止が相次ぎ、サロン活動も7月以降再開に向けて協議を重ねた結果、集まるとの飲食は避けた内容とし、10月以降の活動再開となった。みなし仮設住宅の被災者を対象にしたサロン活動では、遠方から福祉タクシーで店舗まで来ていただくのを断念した代わりに、総社市の協力を得て地域の公民館など離れた場所での開催につながり、サロンでの会食の代わりに手づくりキットを作成するなど、新しい形の活動の模索がすすんだ。コロナ禍で集会所でのサロン開催もしづらくなっている中、建設型仮設住宅の被災者一軒一軒に年末にあったまる商品をお届けし対話訪問する活動は、しっかりと対話できた事で大変喜んでいただけた。



他団体と協同することで発見したこと

おかやまコープ単独では活動の広報も組合員に限られるが、社協さんや市との協同によって、被災された方へのその他の情報といっしょに案内ができ、参加につながられる。

活動において生協が担った具体的な役割

コープ店舗使用を使用したサロン活動、各団体や地域住民等と共催での被災者にとっての居場所づくり。

成果として評価できる点

新型コロナ禍で当初思い描いていた活動内容から変更を余儀なくされ、開始時期は10月以降となったが、新しいサロンの形で回を重ねる中で、下原のサロンは月1回の開催でのべ145名の参加があった。また、今年度より総社市社協の職員に加えて、保健福祉部被災者寄り添い室の職員まで参加が広がった。コロナ禍で集会所でのサロン開催もしづらくなっている中、建設型仮設住宅の被災者一軒一軒に年末にあったまる商品をお届けし対話・訪問する活動は、しっかりと対話できた事で大変喜んでいただけた。

しんぐるまざあず・ふおーらむ・関西・神戸ウエスト

活動名 シングルマザーから発信！地域の困りごとの解決方法を探るネットワークづくり

活動のきっかけ

貧困問題のなかで、特に大きな割合を占めている「ひとり親家庭」の問題。メンバーが働く福祉の職場にもひとり親家庭の母親が多く勤務しており、それぞれが抱えている悩みや問題を共有していた。子育て中の「ひとり親家庭」には、支援・情報がなかなか届かない。働きながら一人で子育てすることは多忙のため、日々の食事もおざなりになりがちで、栄養も偏りがちなうえ、孤食の児童も多くみられる。また、学習の面でも不利な部分が多く、孤立感・疎外感は世代を超えて連鎖していき、社会への不信感、教育のあきらめにつながっていく。そこで、貧困や虐待の連鎖から脱却するためには、小規模地域で助け合えるようなネットワークの構築が不可欠であると2014年10月活動を開始。当事者同士が心を開いて話すことのできる場のなかで、ひとり親家庭がそれぞれに抱えている問題を発掘し、多方面からのサポートを提供するために、各家庭に持ち帰り、日々の料理に利用できる煮物やフライなどをみんなでまとめづくりをしながら、当事者同士が心を開いて話すことのできる場として月に1度「作り置き料理と夕食の会」を開催することになった。

協同した団体

- ◎コープこうべ第5地区本部
- ◎NPO しんぐるまざあずふおーらむ関西
- ◎一般社団法人日本子育て制度機構
- ◎NPO 福祉ネット星が丘

活動内容概要

これまではコープこうべと私たちの団体が1対1でつながってきたが、より一層の協同を目指すために、コープこうべをプラットフォームにした活動を行う。

- ① 定例の食事会をオープンな場とするため、組合員集会室を使用する。
- ② 地域課題を共に考えていける団体（しんぐるネット神戸）を立ち上げる準備のため、法人化検討交流会を開催する。
- ③ 協同して講演・映画会を開催することで、コープこうべと繋がる他団体とも積極的に交流をしていく。

映画会のテーマはひとり親家庭から相談が多いテーマ（不登校・育児問題など）を選択し、子育て中の父親・母親へのアプローチを重点的に展開する。



他団体と協同することで発見したこと

一団体ではできない支援の幅が広がりつつある。専門的な部分を任せることができ、必要な部分に集中できた。また活動を広く知っていただくことで、今、困っている方たちへの到達もスムーズとなった。

活動において生協が担った具体的な役割

広報紙への掲載、連絡の取次ぎ。その他運営にあたり、適切なアドバイスをいただくことができ講演会がスムーズに運んだ。また、他部署への呼びかけも積極的に行っていた。

成果として評価できる点

湯浅誠さんをお呼びすることで地域の子ども食堂を運営されている方の参加が多くなった。協力団体以外の他団体の関心の高い方が集まり、地域のつながりや活動の広報ができ、問題意識を共通のものにできた。自団体のスタッフも自分たちの活動意義を再確認できた。コープこうべ、愛垂児童館の方々との協力も大きいものだった。より一層地域のつながりを強めていきたい。

映画会の参加者 参加者 90名 保育3名 保育者2名
上映後の感想シェア会 20名

講演会の参加者 参加者 76名 保育1名 保育者1名

生活協同組合コープこうべ (「大庄元気むら～コープさんところ」)

活動名 「大庄元気むら～コープさんところ」を立上げ、地域ささえあい活動拠点にする。

活動のきっかけ

コープ大庄は1980年5月にこの地でオープンして以来、生協の店舗として地域で親しまれ、支えられて営業を続けてきた。一方、阪神・淡路大震災を経て2000年代には規制緩和によって、隣接地域にショッピングセンターやスーパーマーケットの出店が相次いだ。こうした環境変化を受け、2019年コープこうべはコープ大庄の営業継続は難しいと苦渋の判断をした。

生協の店舗がこの地で果たしてきた役割は、単にお買物のお役立ちだけではない。ご近所さんや職員との会話を通し「地域のつながり」を再確認する場としての役割も担っていた。

「コープ大庄は食品スーパーとしての役割は終えても、高齢化が急速に進むこの地域に、地域のつながりを実感できる場がつかれないか」。この呼びかけに対し、大庄地区の有志が次々と手をあげ、つどい場づくりに取り組むことになった。超高齢社会においては「健康への不安」や地域のつながりが希薄化したことによる「孤立や孤独」、所得格差の拡大や政治・経済の先行き不透明による「経済的な不安」が広がっている。

これらの地域課題は、行政や市場の働きに期待するだけでは解決しない。地域をよくしたい、住みやすくしたいと願う住民が主人公となって、助け合い、支え合いのプラットフォームをつくるのが、解決の近道となる。私たちのつどい場は、大人も子どももくらしに不安を抱え、生きづらさを抱える方々も、ありのままの自分を受容され、地域住民みんなの心のより所となる場をめざす。生きる喜びに満ち溢れた、くらしづくり、地域社会づくりを目ざし、地域のつどい場「大庄元気むら コープさんところ」を設立した。

協同した団体

- ◎ 尼崎市大庄南地域包括支援センター
- ◎ 兵庫県立尼崎西高等学校
- ◎ 大庄ことはじめ
- ◎ NPO 法人シンフォニー

活動内容概要

気軽に立ち寄れるフリースペース／サロン活動や学びの場など



他団体と協同することで発見したこと

活動は増えてくるが、担い手は増えない。地域活動について、発想ややり方の転換が必要。

活動： 行事遂行型・・・・・・・・>>>課題解決型
 運営： 階層組織型・・・・・・・・>>>ネットワーク型
 従来： 決まった活動をどのように行うか

プラス 新たな活動が増えると そりゃ「たいへん」
 活動の棚卸し+体力の見極め →

真に必要な活動が見えてくる、どれくらいの規模が可能か
 つどい場会議の役割（大庄元気むら運営委員会）

- 1) 地域の特徴・課題を出し合い共有する
 - 2) 課題解決のための方策を考える
 - 3) 既往の活動を当てはめる
 - 4) 足りない部分を補強し、重複する部分を整理する
- 課題を出し合い共有する → 課題解決型の活動
 活動の体系化が図れる → 活動同志の関係が見える
 さまざまな年代・立場の人の声が反映できているか
 ワークショップ等で話し合う機会づくりをつどい場会議で解消
 何が必要か → 誰が担うか・資金をどうするか
 組織・資金・規模から活動を考えない



活動において生協が担った具体的な役割

ファシリテーター役（みんなをその気にさせる人、気づきを促す、みんなが動ける環境やきっかけをつくる）や時にはリーダー的な役割（引っ張っていく、仕切る、指示する）。
 他地域で実践されている好事例の共有。

成果として評価できる点

尼崎西高校と大庄元気むら合同文化祭
 活動報告書冊子郵送
 GPS プロギング@大庄

生活協同組合コープこうべ (男性向けの「食」と「スポーツ」の学び場)

活動名 男性向けの「食」と「スポーツ」の学び場と、発表の場としてのコミュニティ食堂の創造

活動のきっかけ

芦屋市が行政改革としてプロジェクトチームを発足した。その取り組みの一つである「こえる場!」では「健康増進」「高齢者の社会参加」「全世代交流」など喫緊の課題解決に向けて、地域活動を行っている企業・団体等と芦屋市など多様な主体がつながり、様々なアイデアを実現していく場を創造している。その議論のプロセスの中で、社会福祉協議会や高齢介護等の事業を行う社会福祉法人と具体的な取り組みに着手することとなった。

協同した団体

- ◎ 社会福祉法人芦屋市社会福祉協議会
- ◎ 芦屋市
- ◎ 社会福祉法人あしや聖徳園

活動内容概要

各団体がコロナ対応に追われていたことや企画内容が「つどい場」「食」ということであったため、計画していた取り組みを進めることができなかった。一方で、コロナによる生活困窮者支援やフードドライブの常設化の実現など、今回の助成に向けて協議していた関係性があつたおかげで、コロナ禍でも協働で事業を進めることができた。

<h4>他団体と協同することで発見したこと</h4> <p>行政・社協・社会福祉法人と生協の目的は重なる部分が多く、それぞれの資源を生かせば解決できる社会的課題が多くあることに気づかされた。</p>	<h4>成果として評価できる点</h4> <p>今回の協働予定の団体とともに芦屋市内コープこうべ3店舗でのフードドライブ常設化によってコロナ禍の生活困窮者支援につなげることができた。</p>
<h4>活動において生協が担った具体的な役割</h4> <p>目的とした事業は実施できなかったため、役割を発揮できなかったが、コロナ禍でのフードドライブ実現に向けて、店舗という資源の提供・他の行政との取り組みのスキームの共有などを行った。</p>	



テーマ
2

**命を守り、
その人らしい生き方が
できるようにする**



リレー・フォー・ライフ・ジャパン 神戸

活動名 がん啓発イベント

活動のきっかけ

リレー・フォー・ライフ・ジャパン神戸の実行員にコープこうべの関係者がおり、提案を受け依頼したのがきっかけ。

協同した団体

- ◎生活協同組合コープこうべ
- ◎リレー・フォー・ライフ・ジャパン神戸

活動内容概要

- ・がん啓発フォーラム開催
- ・イベント告知
- ・備品作成イベント
- ・コープキャラクター（コーすけ、コピー）の出演



他団体と協同することで発見したこと

新型コロナウイルスの影響により当初生協と協力して行うイベントがリレー・フォー・ライフ・ジャパン神戸2020以外、すべて中止となった。

*当初考えていた企画・効果は次のとおり

コープこうべと共同で紙灯籠を作成するイベントの実施。会場に来た方々によりがん啓発の認知力が上がる。イベントにコープキャラクター（コーすけ、コピー）が出演することで、来場者に対して生協認知が上がる。

活動において生協が担った具体的な役割

新型コロナウイルスの影響により当初生協と協力して行うイベントは中止。来年度も助成申請し、新型コロナウイルスが落ち着いていれば、今年度予定していたイベントを実施する予定。

成果として評価できる点

2019年度

実行員：約30名
来場者：1500名

2020年度

実行員：約15～20名
来場者：300名
オンライン参加者：150名

新型コロナウイルスの影響で、来場者の数は大きく減少。しかし、オンライン配信を行い、初の試みではあったが150名の参加を見込めた。今後もオンラインにより、同時進行で行うことにより今まで以上の参加者を見込める形の礎として今年度の取り組みは意味があった。その中で今回オンライン配信に用いるレンタル機材、新型コロナウイルスの感染症対策費に助成金を使用できたことは大きかった。

生活協同組合パルシステム千葉

活動名 習志野市多世代が交流し、地域で子どもの育ちを支援する取り組み

活動のきっかけ

介護予防体操を定期開催したく、習志野市社会福祉協議会から東習志野高齢者相談センター(地域包括)を紹介された。子どもへの支援では、習志野市生活困窮世帯向け学習支援を受託しているワーカーズコープちばに小学生向け学習支援について相談したことから、提携が始まった。

協同した団体

- ◎社会福祉法人八千代美香会プレーメン習志野
- ◎ワーカーズコープちば

活動内容概要

2020年度当初予定

- ・毎月、連携団体含め5団体が運営する子ども食堂の広報と支援。
- ・小学生向け学習支援。春、夏、冬の長期休みに開催する学習支援に加え、回数を増やし、日本語の習得を助けるような内容を検討し実践する。
- ・「子ども食堂ってなんだろうー地域に広げよう子ども支援の輪」学習会開催を企画。

実行できたこと

- ・連携団体および地域の子どもの食堂運営団体では、2020年4月の緊急事態宣言発令後、小中学校休校により給食がなくなっている子どもたちを心配し、5月から毎月子ども食堂の食品(お弁当)配付を開始。習志野多世代交流連携会議として、子ども食堂への食品支援、また連携会議として困窮世帯へ直接食品支援を実施(5月、12月)。
- ・夏休みの学習支援は学校の夏休み短縮により中止、冬休みの書き初めのみ実施。
- ・春休みに予定していた学年末のおさらいも、1月8日二回目の緊急事態宣言発令を受け、中止を決定。
- ・「子ども食堂ってなんだろうー地域に広げよう子ども支援の輪」学習会は、開催準備のタイミングを逃し実施できなかった。



他団体と協同することで発見したこと

コロナ禍でも何か実現できることはないか相談し合えたため、単独では実施判断できなかったことを実行できた。地域団体と連携したことで、行政への働きかけをスムーズに行うことができた。

活動において生協が担った具体的な役割

2020年度は活動がすべて実現できないような状況となり、地域の子どもの支援のために生協は食品支援の役わりを担った。子ども食堂と学習支援を地域の小学校に周知し、学校や行政が地域団体とつながって子ども支援を継続してくれるよう働きかけた。

成果として評価できる点

- ・連携会議および子ども食堂が実施した食品配付、お弁当配布。月例開催6回/月、年間53回(1月末まで)。
- ・休校期間、長期休みに実施した困窮世帯向け食品配布、お弁当配布。2020年5月に2会場、12月に2会場で実施。配付世帯合計76世帯およそ250人。
- ・学習支援冬休みの書き初めは、参加小学生17人、ボランティア9人となり、学習支援の参加はリピーターが増えている。

愛媛医療生協 共同農園「レインボーファーム」

活動名 5年目を迎え、本格的に「生き生きと楽しく集える活動の場」の広がり、地域に役立つ共同農園づくりを

活動のきっかけ

高齢化が進む中、高齢者の「健康づくり」活動、「健康寿命をのばす」活動、「居場所づくり」活動、「生き生きと暮らせる」活動を、「農園活動」を通じて役割を担いたいとの思いを持ってスタートした。

活動内容概要

共同農園という組織として、共同、共通の目標を持って農園活動を行う。

活動の中で会員同士のつながりも大切にする。

地域の諸団体とふれあい、地域の人達との交流、社会的に貢献できる活動は、高齢者の健康づくり、健康寿命をのばす上で「有効な活動の柱」として位置付けている。

協同した団体

- ◎ 愛媛医療生協
- ◎ えひめ NP0311
- ◎ 三葉幼稚園
- ◎ あったか拓南
- ◎ 共同作業所「なかよし村」



他団体と協同することで発見したこと

- 地域の諸団体との提携した取り組みを通じて、組織内の会員の団結が図られるとともに、会員が生き生きとして園児、利用者、障がい者など「ふれ合う」ことで、「やりがい」を感じて活動している姿が印象的だった。
- 提携先の子どもたちの喜ぶ姿、感謝やお礼の言葉は、この活動をしていて良かった、頑張っていて良かったとの実感が持て、会員間での共感を共有できた。
- そうした中、「健康寿命をのばす学習会」を開催し、農園活動が身体的、社会的フレイルを予防する上で、有効であることを学び、農園活動に積極的に関わることの意義を確認できた。

活動において生協が担った具体的な役割

レインボーファームの活動を健康づくり活動の一つの柱として位置付けていただき、病院の職員研修会などでの活動報告をいただいている。生協理事が会員として参加、病院の役員35名が賛同会員として参加。無人販売「火曜市」の許可と場所の提供、組合員活動保険の適用、生協病院ホームページへのバナー設置、イベント・企画案内チラシの職員への配布のサポートなど。担当事務局の設置、農園事務所の住所設置と事務用品の使用許可など。

成果として評価できる点

- 農園活動が高齢者の健康づくりに、少しでも貢献できてきているのではと感じている。とりわけ「健康寿命をのばす学習会」を開催できたことが良かった。
- 今年新たに、三葉幼稚園との「もち米」づくり、共同作業所「なかよし村」との提携ができた。「地域とのふれあい活動」の重要性を再確認できた。
- 助成金により、トラクターの導入、給水システムができ、倉庫が広がったことなどインフラ整備が進み、野菜づくりのレベルアップが計れた。
- 助成金により、ホームページを作成。生協、病院のホームページにバナーを設定して農園活動を広く深く知ってもらうことにつながった。又、コープえひめからも助成をいただき、機関紙に活動紹介された。組合員と発行部数が多いため活動が広く知られることとなった。
- 助成をいただいた事が、会員のレインボーファーム活動の方向性に確信が持ててきている。

病気の子どもと家族を孤立させない支援団体 NPO 未来 ISSEY

活動名 子ども未来フェスの開催&病児の家族の交流会&グリーンケア会の開催

活動のきっかけ

当団体が2018年に作成した広報用ムービー「グッドブラザー」に生活協同組合コープかがわの共感を得、支援の縁をいただき、香川県内の病気の子どもとその家族へ何か力になれないかと相談をしたことがきっかけ。

協同した団体

◎生活協同組合コープかがわ

活動内容概要

子ども向け交流イベント「かがわ子ども未来フェス in さぬきこどもの国」開催：9月5日
「今と未来を香川のみんなに楽しんでもらいたい！！」をテーマに児童館1階こども劇場にて、当団体主催で実施。香川県立保健医療大学の先生方（ピエロに扮して解説）によるお話。ウイルス・バイキン・感染など、子どもの目線で正しく理解できるようオリジナル絵本を作成。「YouTuberと一緒に動画を作って遊ぼう！」のコーナー、「小学生の野菜ソムリエと遊ぶ～野菜の色・謎・不思議」、わくわくステージ「V.P.といっしょ」で紙芝居やアニメアフレコライブ、童謡ソングに早口言葉・なぞなぞなどのプログラム。アイドル体験（※）「一緒に歌って踊ろう。」（※『KimitomoCandy』は香川県に住むお姉さんたちのアイドルグループ）コロナ禍で劇場への入場制限（50名）があり、入れ替え制でトータル216名が参加。

グリーンケアカフェ開催：12月6日・2月16日（各日2人）

子どもを天国に見送った私たちのひろば「グリーンケアカフェ」を開催（オンライン）。グリーンケアボランティアを長くされている大阪「ビリーブ」の方と一緒に、恋しく思うお子さんのお話等で交流。ピアサポート（当事者同士の支え合い）としても学ぶことが多かった。参加者の感想では、家の中でも言えないことが話せて心が軽くなった。改めてその子の良さに気づいて話すことができてよかったなどの声をいただいた。

小児がん・難病経験者と家族のひろば「ストレリチア」経験者同士が語り合う交流会を設定。大人部屋ではゆっくりとお茶を飲みながら色々な話が溢れんばかりに出ていた。苦しみ・悩みは自分だけではないと思えた。子ども部屋では病弱児・きょうだい児とグッドブラザー達と一緒に絵本を読んだり、キャッチボールをしたり、ボードゲームを一緒にしたりして楽しんでくれた。参加家族4家族（大人4名 子ども3名）。有識者・講師2名 学生ボランティア 5名。



他団体と協同することで発見したこと

イベント周知が広範囲にできた。・CO・OP共済のこどもの保障の情報を得ることができた。知らない人がほとんどでも参考になった。

活動において生協が担った具体的な役割

- ① イベント（子ども未来フェス）の協同開催（企画運営、マルシェやブース等出店含む）。
- ② 交流会・カフェ開催時の会場及びお茶・お菓子、食材の提供、広報。
- ③ 生協まつりでのブース出展（活動紹介、PRなど）

成果として評価できる点

広範囲の対象者へのイベントは当人だけでなく、周りの方のアプローチで団体やイベント交流会の周知につながり、交流会への参加者を募ることができる。交流会では患者家族同士の交流が図れることにより、情報交換、共有等ができる。親の相談や悩みの共有、またきょうだい児へのワークショップ等により家族の息抜きができれば、患児へもいい影響がある。グリーンケアではどうしてもない喪失感を持っている家族がその悲しみと向かい合っていく場が増えるということで参加しようという方も増える。

公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を

活動名 沖縄の文化を通して自信と自立を促すプロジェクト

活動のきっかけ

当法人は沖縄県内での活動を始めて6年目になる。その間、沖縄の様々な場所や自然の中で、活動を行ってきたが、昨年よりコープおきなわの協力を得、新しいプログラム開発や訪問先のご紹介などのご縁をいただいた。今後は組合員とも一緒に多くの沖縄在住の子どもや家族と触れ合える場を作りたいと願って本事業を実施した。

協同した団体

- ◎生活協同組合コープおきなわ
- ◎社会医療法人敬愛会 中頭病院

活動内容概要

沖縄県在住の貧困を含め様々な環境にいる親子が恩納村の施設に来る全国の難病の子どもと家族に寄り添い、彼らと一緒に沖縄の文化を親子で再確認する場で様々な体験をする。このことで沖縄人としての誇りや自分に自信を持ち、自立心を持てるようにしていき、県内外の子どもも病気のありなしや環境の違いで、社会で孤立することがないように交流の場と自分を見直す場を作っていく。



他団体と協同することで発見したこと

本事業においてはプログラムの内容によって協働して下さった団体が異なっている。いくつかの団体においては、本助成事業が初めての関わりであったにも関わらず、きめ細やかな配慮をして下さったと同時に、関わってくれた児童、大人全ての人たちが、病気の子どもや家族に関わったことに喜びを見出してくれていたことが大きかった。また、他団体との交流があることでより一層専門性が際立ち、新たな交流の機会が創出され、参加した地域住民にとっても、「共生の場」を感じることができたようで、今後のプログラムや関係性構築に大きな一歩を踏み出すことができた。当法人にとって、地域連携がより一層進むことや、連携方法が多様になることは、本体の公益活動にも大きな前進となり、地域発信で行う事業においては、他団体の関わりが必須であると感じている。

活動において生協が担った具体的な役割

2020年度はコープおきなわの自主事業が全て中止となってしまった為に、コープおきなわ主導で実施予定のプログラムは開催ができなかった。コープおきなわの役員や中部地域の組合員が参加者やサポーターとしてかわり、活動が盛り上がった。特に3月の報告会では楽器演奏や補助をしてくれた組合員のお子さんが多くいて、頼もしい限りであった。

成果として評価できる点

沖縄県の伝統芸能に家族が一緒になって、初めての体験を家族と一緒にしていただけたこと、子どもたちにこの体験を通していろいろな大人がいて、多様な関わり方があることを知らせることができたのは、今回のプロジェクトの目標に近づいたこととして、評価できる点であった。オンラインのクッキングも貧困家庭や保護者が忙しい家庭の子どもたちにも参加してもらえるように、食材を事前に配布し、安全確保の為に、大人と一緒に関わる形で参加してもらったことで、自分たちでも料理をしたり、料理が他の家族の役にも立つことがわかったとの感想もいただいた。

当初は、当法人は沖縄の団体ではない為、コープおきなわと中頭病院の2団体としか連携が取れない状態であったが、このプロジェクトにより連携団体は10団体以上となった。参加者もトータルのべ人数で218人となり、予想以上の参加者になった。認知活動という意味でも、協力体制強化という意味でも大きな促進力となり今後継続してご期待に沿えるよう注力していく。

特定非営利活動法人 あなただけの乳がんではなく

活動名 乳がん啓発イベント、乳がん検診受診推進

活動のきっかけ

2017年11月、コープ組合員の依頼により、コープ指宿店で乳がん啓発セミナーを実施。

コープかごしま担当者と連携を取り、他店舗での展開を始める。

協同した団体

- ◎生活協同組合コープかごしま
- ◎社会医療法人博愛会相良病院

活動内容概要

1、コープ指宿店で乳がん啓発ブースによる啓発

イベント内容：①乳がん啓発DVDを視聴していただく

②乳がん啓発パンフレットの配布

③乳房自己チェック法の紹介・パネル展示

④共済コーナーで「がんに備えるお金の情報」を伝える

2、イベントと同時に乳がん検診車による乳がん検診実施

受診者アンケートの実施



他団体と協同することで発見したこと

共同購入利用者へのチラシ配布、店舗のポスター等で地域への広報が十分にできた。予約制の検診車での検診は待ち時間が少なく、身近な場所で受けられる検診の継続を希望する意見が多く、活動継続の重要性を痛感した。

活動において生協が担った具体的な役割

イベント、乳がん検診実施店舗との調整

乳がん検診広報

乳がん検診申込受付、申込者名簿作成

イベント、乳がん検診会場提供、準備、検診者アンケート実施
共済推進

成果として評価できる点

新型コロナウイルス感染拡大により、イベント・検診を実施できたのが1店舗だったが、当初の募集人数50名を上回る申し込みがあった。申込70名、検診受診者67名。検診受診者アンケート回答者の48%が30代で、市町村の検診費補助のない30代の受診の機会になった。アンケート結果で80%の方が「毎年開催してほしい」にチェックをしている。

活動名 地域づくりを担う「元気な健幸サポーター」を作る取組み

活動のきっかけ

2019年度みやぎ生協での地域の居場所づくり「ふれあいカフェ」で実験的に健康体操の取組みを行う際に、講師として県内で健康づくりに取り組む一社「りぷらす」に協力いただいたことがきっかけ（対象：シニア男性に特化）となった。

協同した団体

◎一般社団法人りぷらす

活動内容概要

1. 県内2エリアでのプログラムの開催（10月15日、22日「健幸！らくらくフィットネス」2回（会場：桜ヶ丘店メンバー集会）参加者：29人（以下人数のみ）/11月5日、12日「きらきら健幸サポーター養成プログラム」（会場：桜ヶ丘店メンバー集会）7人/1月14日、28日「健幸！らくらくフィットネス」2回（会場：岩沼店メンバー集会室）16人*新型コロナウイルスの影響により1回延期して開催*/2月4日、11日「きらきら健幸サポーター養成講座」2回（会場：岩沼店メンバー集会室）11人*岩沼会場の開催は、岩沼市、名取市、亶理町の行政担当課、社会福祉協議会、地域包括支援センターに協力いただいた。
2. 実績をもとに「きらきら健幸サポータープログラム」の検証、冊子作成
12月～1月「みやぎ版健幸サポータープログラム」を検証し、テキストを作成した（500冊）。
*当初15ページを想定していたが、内容を細分化したことで29ページになった。このため印刷費も予定を上回った。
3. サポーターによる地域での健幸体操の開催
4. サポーター同士の交流会（コロナウイルス感染症拡大のため、実施は見送り）



他団体と協同することで発見したこと

<みやぎ生協> 1. 実施する前にすり合わせを行い、確認を行うこと。2. 参加者とのコミュニケーションの取り方を含めた企画（プログラム）の進め方として、参加者を主体とした姿勢を学ばせていただいた。3. 実施した後に、必ず振り返りを行い、運営の良かった点と改善点（課題）、参加者の様子の共有を行ったことが、細かい視点で次回の対応につながられた。
<りぷらす> 1. 地域に在住する中高年～高齢者の社会交流の機会や頻度について知ることができた。2. 新型コロナウイルス後、家族との交流は変化なしが最も多かったが、家族以外との交流、外出頻度はいずれも減少していた。3. 家族以外との交流頻度の減少は、社会的孤立につながるリスクがあり、このような活動の重要性を明らかにすることができた。

活動において生協が担った具体的な役割

実施前：事業に対する申請、会場調整、開催エリアのメンバー（組合員）への周知。開催エリア内にある社協、地域包括支援センター等へ訪問し、チラシ配布依頼。参加集約、必要備品等の準備。当日：運営のサポート。実施後：アンケート集約

成果として評価できる点

1. 新型コロナウイルスの影響による運動不足やコミュニケーション不足の解消につながられた（延べ63人）。
2. 地域に「健幸サポーター」が生まれることにより、体操とおとした活動の場や交流の場づくり、なかまづくりのきっかけとなった。
3. エリア活動を担う地域代表理事の協力により、エリアの会議やこ～ぷ委員会の中で、サポーターの活動が3回実施できた。委員会の中でも健康に対する意識と自分でできる体操を広げること、サポーターの活動を知ってもらえることが出来た。

津山アルツハイマーデー実行委員会

活動名 津山 世界アルツハイマーデー認知症理解・啓発活動

活動のきっかけ

多くの方に認知症について理解してもらう為にTシャツの作成等を検討している中で、津山市地域包括支援センターだけの考えでは十分ではなく、多方面の団体のアイデアを取り入れた取り組みができればよいのではと感じるようになった。各方面からの認知症に関する方々のアイデアを認知症の理解啓発、支援に活かしていこうとの思いを抱いた。

活動内容概要

- ・ 認知症サポーター養成講座の開催。(認知症を理解して啓発活動を行っていくために、まず協同する団体に認知症サポーター養成講座を開催)
- ・ 理解啓発のためのTシャツを作成し、津山市内の商店や銀行等各団体、個人に購入してもらえるように働きかけた。認知症支援を意味するオレンジ色のマスクにオリジナルのロゴマークを付けられるマスクキットやオレンジ色に染めたマスクを作成し、配布した。また、その活動の様子を写真に撮ってもらい、事務局に写真の送付依頼をした。
- ・ 認知症に関するパネル展示(市役所市民ホール、市立図書館等)
- ・ 認知症に関する映画鑑賞会を行い若い世代にも認知症に関心を持ってもらい、認知症の理解が深まるように働きかけた。
- ・ 認知症予防講座(コープ林田店)

協同した団体

- ◎おかやまコープ美作エリア
- ◎津山市民生児童委員連合協議会
- ◎津山市認知症の人と家族の会
- ◎オレンジカフェ吉井川
- ◎加茂タクシー
- ◎みまさか認知症疾患医療センター
- ◎日本認知症グループホーム協会
- ◎認知症対応型通所介護事業所 じーちゃん・ばーちゃんのお家
- ◎津山信用金庫
- ◎白井茶店
- ◎認知症キャラバン・メイト
- ◎美作大学生活科学部 社会福祉学科
- ◎学校法人美作学園 岡山県美作高等学校
- ◎協同組合 津山一番街
- ◎津山市役所 高齢介護課
- ◎津山市社会福祉協議会
- ◎津山市地域包括支援センター



他団体と協同することで発見したこと

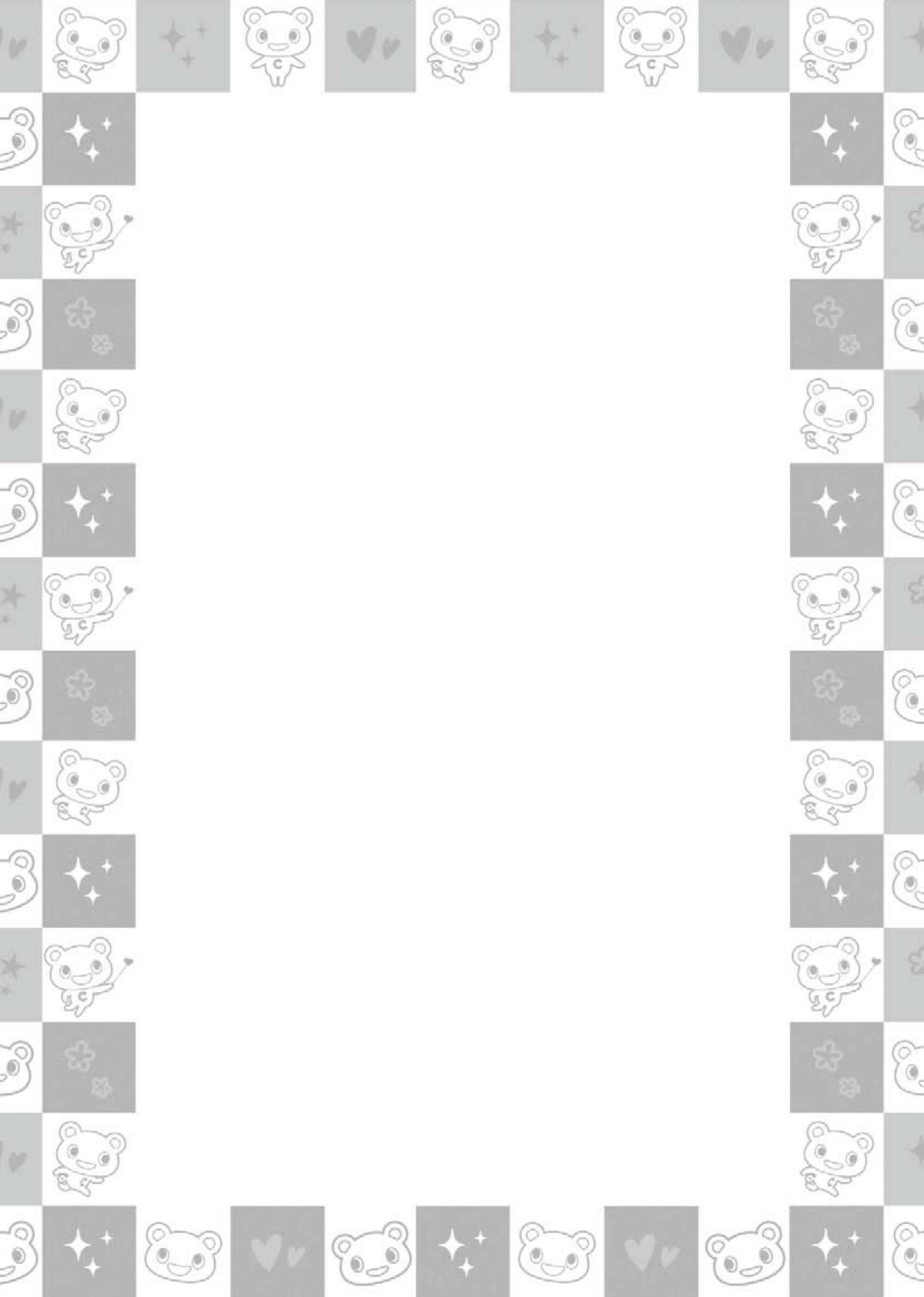
ライトアップや展示などで他団体の協力を得ることができた。今回、新型コロナウイルスの感染対策もあり、新たにオレンジマスクのキットの作成を行った。多くの市民がマスクやTシャツなど、オレンジ色の物を身に着け、認知症啓発に参加し、啓発活動がより広まったと感じた。

活動において生協が担った具体的な役割

認知症サポーター養成講座(会場:コープ林田)を企画し、受講者を募集した。身近で安心なコープ林田店で認知症の街頭啓発と認知症予防講座を実施した。映画鑑賞会、街頭啓発、マスクキットの作成などのイベントの企画と開催。コープ林田及び宅配担当者がオレンジ色の物を着用し認知症支援PRを行なった。同じ津山市で生活する住民同士でお互いを助け合うため、認知症を理解し、支援することを積極的に伝える役割を担った。

成果として評価できる点

認知症の映画上映会は感染予防のため人数を90名に制限し実施した。また、参加者から認知症の方に暖かいメッセージを頂き、それを展示して広く市民の方に伝えることができた。認知症に関する展示をコープ、図書館、市役所、津山駅で実施し、多くの方に見ていただいた。認知症の支援を意味するオレンジ色のマスクキットとオリジナルのロゴを180セット、オレンジ色のマスクを50枚作成したところ、多くの申込みがあり、全て配布することができた。併せてオレンジ色の物を身に着けることを呼びかけ、多くの参加があった。世界アルツハイマーデーがある9月には認知症を支援する方々が、津山の至る所でオレンジ色の物を着用し啓発を呼びかけた。



テーマ
3

**女性と子どもが
生き生きする**



生活協同組合コープ自然派奈良

活動名 きゅうしょくカンガループロジェクト（給食を考えるプロジェクト）

活動のきっかけ

奈良では農業人口・面積が減少し、食べ物が種から口に入るまでの過程を知る機会が減っている。農業についてのこどもたちの体験や、保護者の知識、農家のモチベーションなどの課題を「給食」を核に解決していきたいと活動をはじめた。

協同した団体

- ◎ 農民運動奈良県連絡会（奈良県農民連）
- ◎ 橿原の学校給食を考える会
- ◎ 奈良市の給食のおはなし

活動内容概要

- ・「カレーライスを一から作る」プロジェクトでは田んぼと畑体験を実施し、自分たちで米や野菜を育て、それを食べる体験をした。地場の農産物をもっと給食に使ってもらえるよう、保護者と生産者が連携して行政に働きかけた。※調理室を借りてのカレー作りは中止し屋外でおにぎり試食に変更した。
- ・「田んぼの作業員」プロジェクトで、女性でも無理なく田んぼの手伝いができる仕組みを継続してつづけた。
- ・「給食のおはなし」プロジェクトでは給食関係者への取材と畑体験を実施し、その内容を冊子にまとめた。完成した冊子は市内全小学生に配布して学校給食への理解を深めてもらうとともに、映画上映会でも配布し仲間づくりに活用した。また、この冊子を直接市長に手渡して懇談し、学校給食に関わる様々なステークホルダーが集まる協議会の設立について協議した。映画上映会には多くの保護者や農家の参加があり、今後の活動につながる出会いが多数あった。



他団体と協同することで発見したこと

農家、JA、流通業、行政職員、栄養士、調理員など、他団体のネットワークを通じて様々な人に協力してもらうことができ、それぞれの得意分野を生かすことで、生協だけでは実現できない幅広い活動を実現できた。生協と他団体では少しずつ視点が違い、それぞれの知恵を持ち寄ることで活動の幅や深みを増すことにつながった。

活動において生協が担った具体的な役割

主に、進捗管理、広報支援、企画運営補助、記録、会計を担当した。

成果として評価できる点

「カレーライスを一から作る」プロジェクト（参加者数：11 家族 36 名）新型コロナウイルス感染拡大防止のため募集人数を少なくし、継続して田んぼと畑体験を実施することができた。
「田んぼの作業員」プロジェクト（参加者数：15 家族 16 名）消費者ができる範囲で農家の手伝いをすることで持続可能な農業の一端を担う活動が着実に広がった。
「給食のおはなし」プロジェクト（奈良市内の小学校に冊子約 18,000 冊配布）
・ 小学校で冊子を受け取った子どもや保護者から「給食に興味をもった」「活動に参加したい」などの声が届いた。
・ 市長と学校給食に関わる協議会の設立について協議した。
・ お米の農薬削減や奈良市の特産である大和茶の提供など、より良い給食に向けて協議できる場を目指す。
「いただきます ここは発酵の楽園」映画上映会（参加者数：大人 73 名 こども 28 名 計 101 名）橿原市と奈良市の 2 か所で開催し、奈良市では主に保護者が、橿原市では主に農家が今後の活動につながる懇談を行った。

東吉野子どもと楽しむ会

活動名 食堂や商店を兼ね備えた子どもと子育て世代、村民が暮らすように集える
コミュニティスペース作り

活動のきっかけ

東吉野水力発電株式会社の事務所に使われている古民家をお借りしたことから、東吉野水力発電株式会社と関わりの深いならコープと協同して活動する運びとなった。

協同した団体

- ◎市民生活協同組合ならコープ
- ◎東吉野水力発電株式会社
- ◎特定非営利活動法人 東吉野村まちづくり NPO

活動内容概要

活動内容は、子ども食堂。自然遊び。地域の方々を講師に招いたワークショップ。その他、子どもの自主性を尊重し、体験を体験だけで終わらせず、生活へとつなげていくことをモットーに楽しみながら生きる力をつける。地域でバラバラに活動している人や団体と交流を持ち、橋渡し役をする。地域住人との交流を図り、文化の継承をはかる。



他団体と協同することで発見したこと

今回のコロナのような大きなことが起こると大きな団体と協同することは単純にことが運ばず大変だと感じる部分もあった。ただ、やはりその場合においても一団体では成し得ないことが他団体と協同することで可能になり、可能性の幅を広げるものとなった。

活動において生協が担った具体的な役割

イベントの企画、広報。多くの方々を東吉野村に呼んでくださり村民との交流の橋渡し役になってくれた。また協同でイベントを開催し、コロナ渦において縮小しがちな気持ちを汲んでくれ、前向きにどんな活動ができるのかトークセッションなど開催された。

成果として評価できる点

2020年8月中旬より毎週金土日月を活動日としていた結果、2020年8月～2021年2月時点で延べ 1266人（大人 589人、子ども 677人）が足を運んでくれた。

コロナという前代未聞の経験をした1年であったが、田舎の強みを生かし3密を避け、多くのことができた。また今までつながりのなかった村内の方々とも協同することができたことで、より地域の活性化につながった。さらに活動の実績から行政主導の村起こし事業の一員となることもできた。

特定非営利活動法人熊本県子ども劇場連絡会

活動名 「もっと、みんなで学ぼう みんなであそぼう！ “あそび心” が地域をつくり仲間をつくる」

活動のきっかけ

今の子どもたちには時間・場所・仲間が不足し、さらにスマホ、ゲームなどますます人との関わりを無くす環境になっている。メディア対策でも推奨されるのは“あそぶこと”。日常の中に子どもたちの周りで、関わり合っあそぶ、あそびの時間を設け、また親も共にあそぶことで心の余裕を取り戻すことができ、日々の子どもの関わりを楽しいものにする事ができる。

協同した団体

- ◎グリーンコープ生協くまもと
- ◎親と子を元気にする放課後クラブおかえり！
- ◎八代の子どものくらしと文化を考える会

活動内容概要

- ① 子どものメディア接触について学ぶ、講座+ワークショップ 講師：北崎圭太氏（明石市在住）。
- ② 校区の中にあそびを通してつながり合える居場所を設けることを目標に、そこに携わる人材（あそびのリーダー）として高校生青年を含めて養成する。講師：北島尚志氏（東京都在住）



成果として評価できる点

①子どもとメディアの講座とワークショップ

- * 1月予定をコロナ感染状況の関係で6月18～20日に実施
- ・4カ所実施（熊本市：グリーンコープ熊本麻生田店・老人憩の家・校区公民館 八代市）
- ・参加者：4カ所の総計44人（大人32人 小学生3人 中学生2人 高校生7人）

（評価できる点）with コロナの時代にまさにぴったりの内容で、参加者の要求に合っていた。

グループ討論で身近な問題を出し合い、解決に向かう力を持てた。少人数とした開催箇所を増やしたので質問にも丁寧に答えられた。自粛期間を経て改めて顔を合わせて対話するの必要を感じた。

②子どもとあそびの講座と実践

【講座】

9月13日（日） 県立劇場会議室 参加者22名

12月13日（日） 子ども劇場事務所 参加者20名

【実践】

八代市（1ヶ所） 10月31日、11月23日

参加延べ 子ども28人、大人16人

熊本市（4カ所）・10月26日、11月28日

参加延べ 子ども11人、大人14人 / 10月31日、11月14日

参加延べ 子ども21人、大人25人 / 11月18日、11月23日

参加延べ 子ども22人、大人12人 / 11月23日、11月29日

参加延べ 子ども18人、大人15人 / 10月25日

参加高校生、青年18人

（評価できる点）実践を2回にしたことで、あそびの中で子どもたちが自ら動き、発言し、楽しくなる工夫が大人と共にできた。12月のまとめ会（講座）で、共にあそび合うための学びがしっかりできたので、今後各地域で実践を活かして会を続けるグループができた。

他団体と協同することで発見したこと

- ・今のコロナ禍での子どもの状況を具体的に語り合う場になり良かった。
- ・広報に協力し合えてよかった。
- ・これからの活動の協力関係が作れた。

活動において生協が担った具体的な役割

- ・プログラムの内容について協議
- ・チラシの配布に協力
- ・生協の地域活動の一つとして捉えられた
- ・講座会場の一つで施設を利用

なのはな生活協同組合

活動名 こども食堂『からべえ』・地域活性化と居場所づくり

活動のきっかけ

こどもの貧困がかなり深刻化しているという話を聞いて、生協として地域で何かできないのかを考えた。食のネットワークをいかし、地域の人たちと協力し、こども食堂の開催を目指す。

協同した団体

- ◎加良部地区社会福祉協議会
- ◎こども食堂からべえ運営委員会

活動内容概要

- ・なのはな生協、加良部地区社会福祉協議会、成田市民が「こども食堂からべえ運営委員会」を結成して運営。
- ・毎月第2・第4土曜日、12時～14時に開催。参加費、大人300円、高校生以下無料。
- ・収入の減少が多くみられるということで食材配布を3回に増やした。



他団体と協同することで発見したこと

- ・コロナ感染拡大による緊急事態宣言下で学校が休校となり、こども食堂の中止を考えたが、会議での「休校で給食がないときにこそ、こども食堂の存在が重要になる」という意見が社協や市民の方々から出て、感染防止対策の徹底とお弁当の配布を行う。他団体の方々の後押しにより、こども食堂を継続することができた。生協だけでは中止の可能性もあった。
- ・成田市在住の社協や市民の細やかな情報提供があった。

活動において生協が担った具体的な役割

- ・安定した食材の提供
- ・地域ささえあい助成金による設備の充実
- ・こども食堂の運営の中心

成果として評価できる点

- ・成田市からの情報提供により、様々な人や会社から募金や商品の提供があった。
- ・2月に近くの農家さんに協力していただき、「こども食堂からべえ農園」を開設。こども食堂の食材になるとともに、参加する子どもたちに収穫体験をおこなう予定。
- ※地域住民や地元の会社と繋がることで活動の幅が広がる。
- ・他のこども食堂が休止している中、徹底したコロナ感染防止対策により食堂の継続ができた。
- ・コロナ禍の中でスタッフも密を避け、少人数で、効率よく作業。

北海道生活協同組合連合会

活動名 こども食堂北海道ネットワーク広域連携支援 + フードバンク活動連携

活動のきっかけ

2015～2016年度にかけて全国的に広がった「子ども食堂」の活動が安全に運営され、地域から安心して信頼される存在になる事を願い2017年度に立ち上げた「子ども食堂北海道ネットワーク」の活動を更に仲間や応援団を増やしていこうという事がきっかけ。

協同した団体

- ◎ JA 北海道中央会
- ◎ こくみん共済北海道推進本部
- ◎ 北海道労働金庫

活動内容概要

2020年2月から「コロナ」の脅威、猛威が全国に波及し“緊急事態宣言”が発出される中、道内の子ども食堂、地域食堂も一旦の休止を余儀なくされた。ステイホームや休校という事態が続く中、6～7月にはイベントやおやつの手渡し、そしてお弁当配布の活動などが50%くらいの運営者によって再開された。2020年度はコロナと云う困難な状況下であってもかつてない“多様な支援”が形成された年にもなった。その仲介役、橋渡し役として本ネットワークが大きな力を発揮する事ができた。道生協連として支えてきたこの「北海道ネットワーク」がこの3年間の活動を通じて地域からの信頼を醸成してきた事を現す出来事であった。2020年度1年間は「対面」が叶わず「連携」「パートナー」作りを通じた広域連携とフードバンク活動がメインとなったの活動展開だった。結果的に費用の費目別コントロールあるいは活動の事前調整ができずに反省をしている。



他団体と協同することで発見したこと

- ① 行政窓口との連携、信頼の醸成が幅広い支援創出にとって“キーポイント”であること。
- ② こども食堂、地域食堂への認知と多様な参画へのハードルがこの間の活動の中で自分たちが思う以上に低くなっており、想像もしていなかった団体との接点が数多く生まれたこと。
- ③ メディアでの多様な取り上げが更に支援者拡大への創出機会となっていること
- ④ これらの共有が運営者のエネルギーへと再点火され、継続への強い思いを応援していくことにつながる。

活動において生協が担った具体的な役割

- ① 北海道ネットワークの事務局機能
- ② 北海道ネットワークの対外的活動の包括的実践活動
- ③ 生活困窮者支援団体との接点、ネットワークづくり
- ④ 協同組合ネット北海道他との地域連携活動でのアライアンス

成果として評価できる点

- ① 道内200団体とのパートナー関係の創出～エリア別（函館・釧路帯広・旭川・札幌）の地域リーダーとの関係づくりが大きく進んだ。
- ② 道内大手事業者（日本ハムファイターズ・エアドウ・北海道コココーラ）との連携活動が進んだ事によって「ライオンズクラブ」「ロータリークラブ」との連携活動へ発展し2020年度の物的支援は前年度の約3倍2500万円相当の支援を実現できた。
- ③ メディアでの活動紹介は主要新聞、地元TV局で前年度の倍となり、この事が「寄付金」への大きな力となり、コロナ禍の下での開催支援に繋がる環境整備グッズ（マスク・手袋・除菌グッズ・体温計）の提供へとつながった。
- ④ こども食堂北海道ネットワークへの参加・参画が大きく進んだ。運営団体の参加は当年度だけで約15団体の増加があり「こども食堂北海道ネットワーク」も70を超える規模となり今後の支援活動の枠組みの強化を考えるきっかけとなった。
- ⑤ 道内主要単協でもある「コープさっぽろ」「生活クラブ生協」との連携活動が進んだ。

シングルズ（香芝市母子寡婦福祉会）

活動名 ひとり親家庭の親と子の居場所づくりと学びの広場

活動のきっかけ

昭和31年に地域の母子家庭及び寡婦が集まり互いに支え合い、生活の安定と向上を目指して設立。現在は様々な理由や事情によりひとり親家庭で生活を営んでいる児童が心身ともにすこやかに育成するために必要な諸条件の確保と、ひとり親家庭の社会的自立を推進することを目指す。

協同した団体

- ◎市民生活協同組合ならコープ
- ◎香芝市社会福祉協議会

活動内容概要

香芝市在住のひとり親世帯の親子を対象に、夏休み行事「べんがら染めに挑戦」を開催。

秋の交流会は「柿の葉寿司手作り体験」を開催し、奈良県の名物を学習した。

「教育資金あれこれ講座」では、教育資金について国や県、市が実施している修学支援や給付奨学金、社会福祉協議会が窓口となる教育支援資金など、こどもの進学資金について学んだ。

学習支援「心を育む学びの広場」は、新型コロナウイルス感染拡大により6月より開催した。



他団体と協同することで発見したこと

ならコープが年間の事業計画を作成し、コロナ対策等の会議を開催し、他団体と協同しながら会の目的を達成する為に、様々な対策・趣向を凝らして開催することができた。ならコープからの紹介でフードバンク奈良の協力も得ながら会員の生活維持やこどもの心理的不安の解消に大きく関与した。

活動において生協が担った具体的な役割

- ・ 事業内容等についての協議
- ・ 会の事業開催ポスター掲示とチラシの配布に協力
- ・ フードバンク奈良の紹介
- ・ 会のパンフレット配布に協力
- ・ 学習支援のこども達に文房具などを会に受渡し

成果として評価できる点

- ・ 新型コロナウイルス感染症により予定の事業を催すのが難しい状況ではあったが、親子のストレスや不安を少しでも解消できるよう、感染対策を徹底したうえで開催することができた。
- ・ 夏休み行事「べんがら染めに挑戦」参加者23名（新規4名）予定していた勉強会を中止し、「夏休み行事」として、三密防止のため、短時間で野外を含めた広い場所で開催できる「べんがら染め」を実施した。親子の交流をはかり、絆と思い出づくりになった。
- ・ 秋の交流会「柿の葉寿司手作り体験」参加者40名（新規7名）予定していた社会見学先が再開されなかった為、同一県内で開催できる体験学習に変更。同じ境遇の親子同士で悩みの相談や交流をはかり、ひとり親世帯の孤立化の防止になった。
- ・ 「進学資金あれこれ講座」参加者23名（新規0名）「ならっぴ出前講座」を予定していたが、中止になり、同一市内で準備が整えられる事業に変更。ひとり親家庭の進学における資金の様々な疑問や不安を解決するため、生活福祉資金などの講座を開催。こどもの未来の為に資金の不安を解消し、心理的ストレスの解消に努めた。
- ・ 学習支援「心を育む学びの広場」参加者延べ446名（新規2名）全26回 経済的な理由から、こどもの学力低下を防ぐため、元教員や学生ボランティアの協力を得て勉強会を実施。また、こどもの悩み相談にも応じ、心のケアにも努めた。

NPO 法人フードバンク八王子えがお

活動名 夏休み・冬休み期間等 子育て世帯食料応援事業

活動のきっかけ

所得階層によって子どもの栄養格差が生じている調査報告の学習。その格差は夏、冬の長期休暇期間に顕著になることから、ひとり親世帯を中心に子ども世帯を応援するキャンペーンを2018年夏より開始し、3年目の2020年度が今回となる。

協同した団体

- ◎東都生活協同組合
- ◎自然派くらぶ生活協同組合

活動内容概要

学校給食が休みとなる長期休暇期間の小中学生をはじめとした食料支援は時機にかなったものである。「えがお子ども応援プロジェクト」は、これまで夏・冬休み期間の年2回だったが、コロナ感染禍の2021年2月には参加団体から春も実施しないかと声かけられ、当初予定外であった緊急支援を52世帯に対して実施できた。支援対象を中学生までから高校生までに拡大したことも重要である。春の特別支援世帯まで加えると延べ262世帯に支援が広がった。



他団体と協同することで発見したこと

コロナ感染の拡大のため、計画した学習講演会と、それを手始めとした協同の取り組みは中止になった。終息後に繰り延べになったことは残念であり、発見という段階には至らなかった。

活動において生協が担った具体的な役割

本プロジェクトを協同で成功させるバロメーターは理解と協力の輪を広げ、長期休暇期間、困窮状況にある子育て世帯への関心を広め“思いやりと労り”の活動の輪を大きくすることである。

コロナ禍で困難な中、フードドライブや募金活動を日常の宅配事業の中で広げ、2019年度の実績を大きく超える協力の輪をつくり出したことは、コロナ終息を待って次のステップを模索する上で大きな教訓を産み出した。

成果として評価できる点

決して成果主義的見方ではないが、このコロナ感染禍で困難なとき、協同での事業は様々な制約があったにもかかわらず、協同団体それぞれが工夫を凝らし前年にも増す協力を生み出すことができた。

特定非営利活動法人チャイルドケアセンター

活動名 ママの社会参画支援（再就職支援）

活動のきっかけ

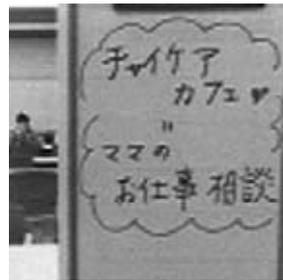
当団体は、設立当初から親子の居場所づくりなどの子育て支援を行ってきた。その中で、女性活躍が推進され共働き世帯が半数を超える社会情勢もあり「子育てだけではなく“自分のこれからの生き方、働き方”を考えたい」という母親のニーズの高まりを感じている。また、育児を通じてポータブルスキルを磨いた母親の社会参画は、地域の企業の人材不足緩和の一方策として期待されることである。特に、保育士不足は深刻な状況であり、母親の社会参画にとってのボトルネックともなっているため、潜在保育士発掘の分野についても厚い施策を講じる必要を感じている。

協同した団体

◎エフコープ生活協同組合

活動内容概要

- Stage1 【ママカフェ】母親の抱える悩みや将来について話せる場を設けた（月1回開催）
- Stage2 【ママセミナー】仕事と育児の両立に向けた知恵や社会保障等を学び今後のライフキャリアプランを考える講座を開催（託児付）
- 【潜在保育士向けセミナー】再就職に向けて保育の基礎・最新事情を学び直す講座を開催
- Stage3 【就労サポート】個別のキャリアカウンセリングおよび、企業向け啓発セミナーやインターンなどを実施（コロナの影響により、企業ヒアリングと啓発情報のメール送付に変更）



他団体と協同することで発見したこと

エフコープは普段から子育て世帯のサポートをされており、実際に子育て中の女性が活躍もしているため講座の詳細企画にあたって有意義な意見を沢山いただいた。また、組合員向けの告知に対して反響が大きく、このような取り組みを必要としている組合員が多いことを改めて感じた。当法人とエフコープの双方にとって、お互いの活動を知るきっかけになった。

活動において生協が担った具体的な役割

助成により、単独では実施できなかった再就職の全段階の支援をトータルで試みることができた。また、告知においては生協の支援を受けているという信頼性が、参加者の安心感につながった。

成果として評価できる点

- Stage1 【ママカフェ】全8回開催 合計19名
- Stage2 【ママセミナー】2回連続講座 17名
- 【潜在保育士向けセミナー】2回 合計18名
- Stage3 【就労サポート】個別のキャリアカウンセリング 50名
- 地元企業や保育施設向けのヒアリング 5件
- 啓発情報のメール送付 50件

ママカフェを定期開催したこと、エフコープに告知協力をいただいたことで、活動の認知度は昨年までよりも高まったと感じる。ママカフェには、社会復帰に向けて不安があるがどこに相談して良いのかわからない母親たちが悩みを共有したことで不安を軽減して帰られた。セミナーは「他では聞けない内容だった」「自分の今後と向き合うきっかけになった」「不安が軽くなった」と好評で、再就職へのマインドセットにつながっていた。エフコープが運営する子育て世帯向けのwebサイトでもセミナーの内容を掲載いただき、多くの方に情報を伝えることもできた。キャリアコンサルティングでは個別の希望や課題を聞き、今後の方向性を整理していくことができた。コロナの影響で企業の求人が激減している状況だったため、企業ヒアリングを実施し、求人活動の再開に備えて地元人材活用について情報提供を行った。

特定非営利活動法人パープルネットさいたま

活動名 みんなが DV 被害者サポーター～つながる居場所～

活動のきっかけ

DV は人生に大きな影響を及ぼし、被害後の困難は多岐にわたる。一人でも多くの人に DV について知ってもらうとともに、様々な情報やスキルを持ち寄り学んでいくことで、身近な支援者をふやしていきたいという思いから企画した。

協同した団体

◎ パルシステム埼玉

活動内容概要

DV や児童虐待をはじめとした暴力の問題について体系的に学び、支援者のあり方について学ぶ「支援者養成基礎講座」と様々な分野で支援に携わる人々が集い、DV の問題について理解を深める「支援者 café」の実施。



他団体と協同することで発見したこと

子育てや高齢者、地域での居場所を作る活動、支援をしている方と、この企画を通じてつながることができた。この企画を通じて、DV、暴力、人権侵害などに対して問題意識は持っているが、具体的に何をすればいいのかわからなかったという声があった。

様々な人たちとつながって、声を聞いていくことで、被害者が専門の相談機関につながることはハードルが高いことや、このハードルを低くする為には周りにいる人の力が必要であり、被害者の話を聞き、受容し、相談につながる為に背中をそっと押す、横にいる様な関わりが必要であると再確認した。

活動において生協が担った具体的な役割

会員向け広報誌での広報協力により、今まで DV の問題は自分とは関係ないと思っていた人達とつながる機会となった。

パルシステム埼玉の託児制度を活用し、小さなお子さんがいる方も安心して参加できる企画となった。

安心、安全な会場を提供していただけたことで、安定して企画を実施することができた。

成果として評価できる点

「支援者養成基礎講座」(4日間) 延べ 47 名参加。

「支援者カフェ」(2日間) 延べ 7 名参加。

昨年に引き続き開催できたことで、昨年の参加者とも継続的に関わることができた。

また、昨年度に未受講の講義を今年度に受け、修了証を手にすることができた参加者がいた。昨年受講した時より、より DV のことが理解できたという声もあり、継続して学ぶことの大切さを感じた。

参加者のアンケートより「講座を受けたことにより、視点が変わった。安心で、対等な関係を意識するようになった」「DV の講座は興味があったが今まで巡り会わなかった。今回参加できてよかった。」「この講座で学んだことを少しでも役立てるように努力したい」「社会には女性に対しての多くの抑圧がある事に憤りを感じたが、多くの人々が DV について学び、知っていくことで 10 年、20 年後には対等な社会になっていくという希望を胸に活動したい」等の声があった。参加した方々のこれからの生活の中で、あるいは仕事の中で、この講座での学びがきっと生かされていくことだろうと感じた。また、今年度基礎講座に参加した全員が、「インストラクター養成講座」に進むことを希望しており、次年度の企画を考えている。

NPO 法人みやっこサポート

活動名 食で子ども達を守り、地域の未来を守るプロジェクト！

活動のきっかけ

当法人が地域福祉への貢献を目的に相談支援や地域交流、子ども・子育て支援を行ってきたことをコープこうべの方々が知り、今後更なる高齢者、地域からのニーズ、社会問題に取り組むには地域における連携、特に食を通じての支援や学びが必要であると意見が一致し、協同での活動を進めた。

協同した団体

- ◎生活協同組合コープこうべ 第2地区活動本部
- ◎コープ夙川店

活動内容概要

当法人主催、他の団体との協働で、『みやっこ食堂』（子ども&おとなの地域食堂）を、毎週金曜日に開催し、『食学』のイベントを行い、子ども達に食を学んでもらう予定であったが、新型コロナウイルスの影響により開催できなくなった。その代替えとして当法人主催、コープこうべ等との協同で『みやっこ弁当』（サポートの必要なご家庭への弁当や食材などの提供）を実施した。配布方法は、レンタルスペースでの配布や、取りに来ることができない家庭には配達を行った。



他団体と協同することで発見したこと

コロナ禍で何ができるのかと考えたときに、各団体の強みを知り、その強みを合わせることでより多くの方の安心や喜びにつながるサポートができることを発見した。

活動において生協が担った具体的な役割

当初の予定では、みやっこ食堂（子ども&おとな食堂）での食事の提供に関して、食材の提供、居場所づくりと参加者とのコミュニケーションを行い、食学（食を学ぶ）においては、食品ロスについて子ども達に学ぶ機会をつくることを予定していたが、コロナ禍において実施できなくなったため、食のサポートの必要な家庭の掘り起こしと、サポートが必要な家庭への弁当配布の案内、食材の提供、そして直接的な弁当の配布とご家族への声掛け等のサポートを行った。

成果として評価できる点

■みやっこ弁当（毎週金曜日）

2020年10月から毎週金曜日 合計25日間実施（子どものいるサポートが必要なご家庭にのべ1,727個の弁当を配布）

あくらす

活動名 地域で人が繋がりがあ、生活しあい、育ちあう場所の提案と安心して暮らせる地域を目指す拠点づくり

活動のきっかけ

地域の団体の孤立を予防するためのネットワークの形成づくりとしてコープこうべ安倉店2階のふれあい広場を活動場所としてカフェやワークショップを始めた。宝塚市社会福祉協議会の地域担当、地域コーディネーターからイベント参加や地域会議の参加を提案いただき、宝塚市役所地域福祉課のお互い様のまちづくり「エイジフレンドリーシティ宝塚」の縁卓会議に参加させていただいたことがきっかけとなっている。

協同した団体

- ◎ コープこうべ 安倉店
- ◎ 宝塚市社会福祉協議会
- ◎ 宝塚市役所 健康福祉部
- ◎ NPO 法人 月と風と

活動内容概要

- ① 「あくらすカフェ」 コープこうべ安倉店を利用し、来店利用者の方にお茶や手作りお菓子などを提供し居場所作りを行う。孤独、孤立した高齢者にも声をかけ交流を図る。(今年度休止)
- ② 「ハンドメイドマーケット」 地域のハンドメイド作家さん・宝塚地域の障害者の作業所に出店してもらうことにより、作家、組合員、ワークショップ参加者に、コープこうべ安倉店へ足を運んでいただき交流を図る。
- ③ 「ワークショップ」 地域の方に講師になっていただき、参加の組合員、ワークショップ参加者にハンドメイドの時間を共に楽しんでもらう充実した時間と場を作る。ハンドセラピーの資格取得者も参加。
- ④ 「チャリティショップ」 NPO 法人「月と風と」と提携し、リサイクル服を販売することにより SDGs 意識を高めながら、地域の世代間の交流を図る。
- ⑤ 「クリスマスおやこ LIVE」 子育て中の親子向けのイベントを宝塚ミライキャンパスと協同して開催。あくらすチャリティショップ・カフェとして出店(12月19日 文化芸術センター 約200人動員)。



他団体と協同することで発見したこと

幅広く関係性を作ることで、様々な情報源のネットワークができ、情報共有が可能になり、世代で共有できていなかった必要な地域の課題の洗い出しができ、ニーズをより認識する機会ができたこと。また、他団体とのネットワークを通じて、活動内容をより俯瞰的に見ることができた。

活動において生協が担った具体的な役割

- ・ コープの事業所が地域社会の社会貢献の場として開放され、地域との協同、行政との協業といった新たな地域モデルを目指した。
- ・ 行政をはじめ、地元の企業、ボランティア団体、NPOなどと連携・協力の要請「あくらす」と地域をつなぐ役割を担った。
- ・ 組合員へ活動を広報することで、地域活動への参加・参画促進と地域自治向上に寄与した。
- ・ 生協利用者に高齢者が多いことから、多世代が交流することで高齢者の活躍の場の創出、自己実現達成へつなげることができた。

成果として評価できる点

- ① 「ハンドメイドマーケット」 普段接点を持たない人脈を作り、地域・世代間交流ができた。子育て世代の母親の自己実現の場を提供。コープこうべ安倉店への来店動機にもなった。
- ② 「ワークショップ」 出店者15店舗。地域の方が講師になり、参加者との交流で、地域の高齢者や子育て世代の母親との世代間交流ができた。こちらも子育て世代の母親のリラックスの場であり、自己実現の場となる。また、ハンドセラピーの資格取得者を通じ世代を超えたコミュニケーションを図ることができた。
- ③ あくらすチャリティショップ7月5日 OPEN
チャリティショップの運営を開始し、地域との交流を図る場所として活用。「作家さんに会える日」は地域の交流を深める場となり、安倉店への来店動機となった。「まちの保健室」第3水曜日10時～12時 10月～2月で14人。看護師、介護福祉士が対応。インターネット予約やオンライン対応を取り入れることにより、もれなく年代をサポートできた。「地産地消の味噌作り」地域の講師、生産者、参加者の交流と親子のコミュニケーションの場を創出できた。

2020年度 CO・OP 共済 地域ささえあい助成 団体交流会 開催報告

2020年度「CO・OP共済 地域ささえあい助成 団体交流会」を「コロナ時代における活動」をテーマにオンラインで開催し、43名の参加をいただきました（事務局除く）。

助成を受けられている21団体28名の申し込みに加えて、助成の審査委員等15名のオブザーバー参加がありました。

開催日時

2020年10月27日（火） 13時30分～16時30分

開催内容

① 開会挨拶 コープ共済連 代表理事理事長 和田 寿昭

② 基調講演「組織を超えて協力すれば課題は解決できる 排除されやすい人に居場所と出番を作る」

茨城 NPO センター・コモンズ 代表理事 横田能洋様

常総市で様々な分野の地域づくり活動を行い、近年では災害後の中長期的な地域復興とコミュニティ再生、自主防災、空き家再生に力を入れてきた経験から、コロナ禍を災害になぞらえて、コロナ時代における活動のヒントをお話いただきました。



③ 助成金活用団体による活動報告

①活動名：「もったいない」を「分かち合い」～「ありがとう」へ
公益社団法人フードバンクかながわ

②活動名：子ども未来フェスの開催&病児の家族の交流会&グリーフケア会の開催
病気の子どもと家族を孤立させない支援団体 NPO 未来 ISSEY

④ 分散会交流

グループに分かれ、次の内容を中心に交流しました。

- ・コロナ時代に活動を継続・前進させるために工夫していること、苦労していること
- ・本日の講演・報告を聞いて自組織の活動に取り入れたいこと、挑戦してみたいこと

⑤ 閉会挨拶 コープ共済連 組合員参加推進部 部長 田中 美樹



団体交流会参加者のスクリーンショット

参加者の声

- ・はじめはすこし戸惑いましたが、いろいろなお話が聞けてよかったです。
- ・普段、接点のない団体の方々とつながれて、コロナ禍での活動の実状や悩みや対応内容を分かち合うことができ有意義でした。
- ・各地で各団体が頑張っている様子が直に聞けて、これから後半期を迎えるに際し、大きな励みになりました。
- ・テーマ、時間設定、進行・報告方法など、WEBでの交流の運営方法はどこもまだ手探りであり、研究が必要です。
- ・コロナ禍でも、それぞれ工夫をされ活動されていることがわかり、よい刺激になりました



2020年度の募集内容です。2021年度の募集は終了しています。2022年度の募集については、内容や募集時期の変更があります。2021年夏頃に、ホームページ等のご案内を予定しています。

地域ささえあい助成

— 生協と他団体が協同する活動を応援します —

2020年度 募集のお知らせ

CO・OP共済は、「自分の掛金が誰かの役に立つ」という組合員どうしの助け合いの制度です。コープ共済連はCO・OP共済を通じて豊かな社会づくりをめざしています。その活動の一環として、生協と地域のNPOやその他の団体が協同して地域の暮らしを向上させる活動を支援します。全国の生協、NPO、その他の団体の皆さまからの多数のご応募をお待ちしています。

応募期間

2020年1月7日(火)
～1月31日(金)
(当日消印有効)

応募条件



活動テーマ

以下①～③の対象となる活動のテーマいずれかに該当すること

必須条件

生活協同組合とNPO・ボランティア団体等が協同した取り組みであること



対象となる活動のテーマ

①「暮らしを守り、暮らしの困りごとの解決に資する」

例 地域住民による高齢者等への生活支援のコーディネーター、障がい者の就労支援、震災による避難者へのカウンセリングの取り組みなど

②「命を守り、その人らしい生き方ができるようにする」

例 病気やケガで治療中の方やそのご家族への治療に専念できる環境の提供や、治療中における精神面でのサポートを通して生活の質の向上を目指す取り組み、病気の予防や早期発見を目的とする啓蒙活動など

③「女性と子どもが生き生きする」

例 子育てひろばの開設・運営、出産後の再就職や社会復帰を支援する取り組み、DV被害者からの相談を受け付ける活動など

対象となる活動期間

2020年4月1日～2021年3月31日の間に実施する活動が対象です。

必須条件～生協と他団体の協同～

次の①、②いずれかを必須とします。

- ①生活協同組合以外の団体(NPO法人等)が応募する場合には、活動内容が「生活協同組合と協同して行うもの」である
- ②生活協同組合が応募する場合には、活動内容が「生活協同組合以外の団体と協同して行うもの」である

- 日本国内を主たる活動の場とする生活協同組合、NPO法人、任意団体、市民団体を対象とします。
- 今後設立予定の団体でも構いません。
- 「協同して行う」とは、受注委託の関係ではなく、対等等で企画を一緒に作り、ともに活動する関係をいいます。

〈対象とならない活動〉—以下、例—

- 左記の①～③のいずれのテーマにも合致しない活動(環境問題等)
- 生活協同組合同士の活動(100%子会社・生協から派生した団体も含む)
- 生活協同組合単独もしくはNPO法人等の団体単独の活動
- 生活協同組合が、対象となる活動期間中に「CO・OP共済健康づくり支援企画」より助成を受ける活動(応募を予定している場合や、審査中の場合も含みます)
- 生協の役割が、主に会議室等の場所や食料の提供のみの関係である場合
- 単発のイベントのみでの協同で、イベント終了後の協同の深まりが見受けられない場合
- 生協が他団体の主催するイベントにブース出展するのみで、全体の企画への関与が乏しい場合



助成内容

助成額は、1事業あたり100万円を上限としますが、審査委員会が認めた活動に限り、それ以上の助成額になることがあります。

審査委員会の判断により、一部減額での助成となる場合もあります。

助成総額は最大2,500万円を予定しています。

●助成の対象となる費用●

- 活動に直接関わる経費（資材費、消耗品購入費、旅費、交通費、印刷製本費など）
- 講師謝礼、指導料など

●助成の対象にならないもの●

- 飲食費、接待費、保険料、人件費（応募団体および協同する団体の職員に対する講師謝礼・指導料等の謝礼金を含みます）
- 助成を受ける事業以外の運営に係る費用
- 営利を目的とする事業
- その他、審査委員会が不適切と判断したもの

活動報告

助成を受ける団体には、所定の報告書をご提出いただきます。その他に、活動の様子について訪問や取材をさせていただく場合、コープ共済連の主催する交流会等での報告をお願いする場合がありますので、ご協力をお願いいたします。

活動報告は、コープ共済連のホームページや冊子等に掲載し、ご紹介させていただきます。

応募方法、提出書類

①応募要項、応募用紙の入手方法

コープ共済連のホームページよりダウンロードいただくか、下記「お問い合わせ先」までメールかFAXにてご請求ください。

URL <http://coopkyosai.coop/about/csr/socialwelfare/2020.html>

※ご請求の際には、団体名、郵便番号、住所、送り主の方の氏名、電話番号を明記してください。

選考

助成団体は、外部有識者やコープ共済連関係者などで構成される審査委員会で決定します。

同一団体に同一内容で複数回助成を行う場合は、3年を上限とします。また、審査委員会の判断により、一部減額での助成となる場合もあります。

なお、生協以外の団体が応募する場合、生協の役割発揮が期待できるかを重視して選考を行います。

選考にあたり、事務局からヒアリングさせていただく場合がありますのでご協力ください。

応募スケジュール

■応募期間：2020年1月7日(火)～1月31日(金)
(当日消印有効)

■審査委員会：2020年4月

■結果通知：2020年6月上旬
(第一報はメールで通知します)

■助成金の振込：2020年7月下旬

②応募方法

応募にあたっては、応募要項をよくお読みいただき、以下の書類を事務局宛にご送付ください（メール、郵送のみ可）。

応募団体への事務局からの書類受領通知メールをもって、受付完了とします。2020年2月15日頃までに受領通知が届かない場合、受付ができていない可能性がありますので事務局までお問い合わせください。

※FAX、持参による提出は受け付けておりません。

- 応募用紙
- 定款（定款は応募団体がコープ共済連の会員生協である場合、ご提出は不要です。ご不明な場合はご相談ください）
- 見積書など（申請する費用の根拠となる資料）

お問い合わせ先

日本コープ共済生活協同組合連合会

組合員参加推進部

地域ささえあい助成事務局宛

TEL 03-6836-1324

メール contribution@coopkyosai.coop

応募書類提出先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-1-13

コープ共済連 組合員参加推進部

地域ささえあい助成事務局宛

過去の助成団体活動内容はホームページでご案内しています。

コープ ささえあい 報告集 検索

URL <http://coopkyosai.coop/about/csr/socialwelfare/report.html>

「協同」についてご不明な場合は、日本生協連 地域・コミュニティ担当 (03-5778-8135) までご相談ください。

※協同する生協をお探しの場合、生協との調整に時間がかかる場合や、地域の事情により生協をご紹介できない場合もございます。

オフィシャルホームページをリニューアルしました

「地域ささえあい助成」のサイトをぜひご覧ください。



「コーすけ」のブランドサイトをご紹介します

コープ共済 オフィシャルホームページの「コーすけとCO・OP共済」では、ペーパークラフトや壁紙、ぬりえなど、コーすけの楽しいツールをご用意しています。ぜひ、ダウンロードして活用ください。冊子中にも、クラフトペーパーを使用しております。

【PC版 URL】

<http://cosuke.coopkyosai.coop/download/>

【スマホ版 URL】

<http://cosuke.coopkyosai.coop/sp/download/>



登録制ページの開設を準備しています

事務局より、助成先の生協・団体に向けたご案内を掲載し、ご覧いただけるように開設の準備をすすめています。2021年6月開設予定。利用方法等の詳細は、登録対象となる生協・団体に、別途ご案内いたします。



次回の団体交流会について

2021年秋に団体交流会等の開催を予定しています。日程やテーマは現在検討中です。決まり次第、助成を受けられている生協・団体にご案内いたします。

本冊子の「協同」「協働」の表記について

「地域ささえあい助成」では、生協と生協以外の団体による「きょうどう」について従来、「協同」の表記を使用してきましたが、実践的な活動を重視していることがより伝わりやすいように今後は「協働」の表記に切り替えていきます。本冊子では一部切り替えております。

**CO・OP 共済 地域ささえあい助成
2020 年度 活動報告集**

発行日：2021 年 6 月

発行元：日本コープ共済生活協同組合連合会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-1-13

電話 03-6836-1324

